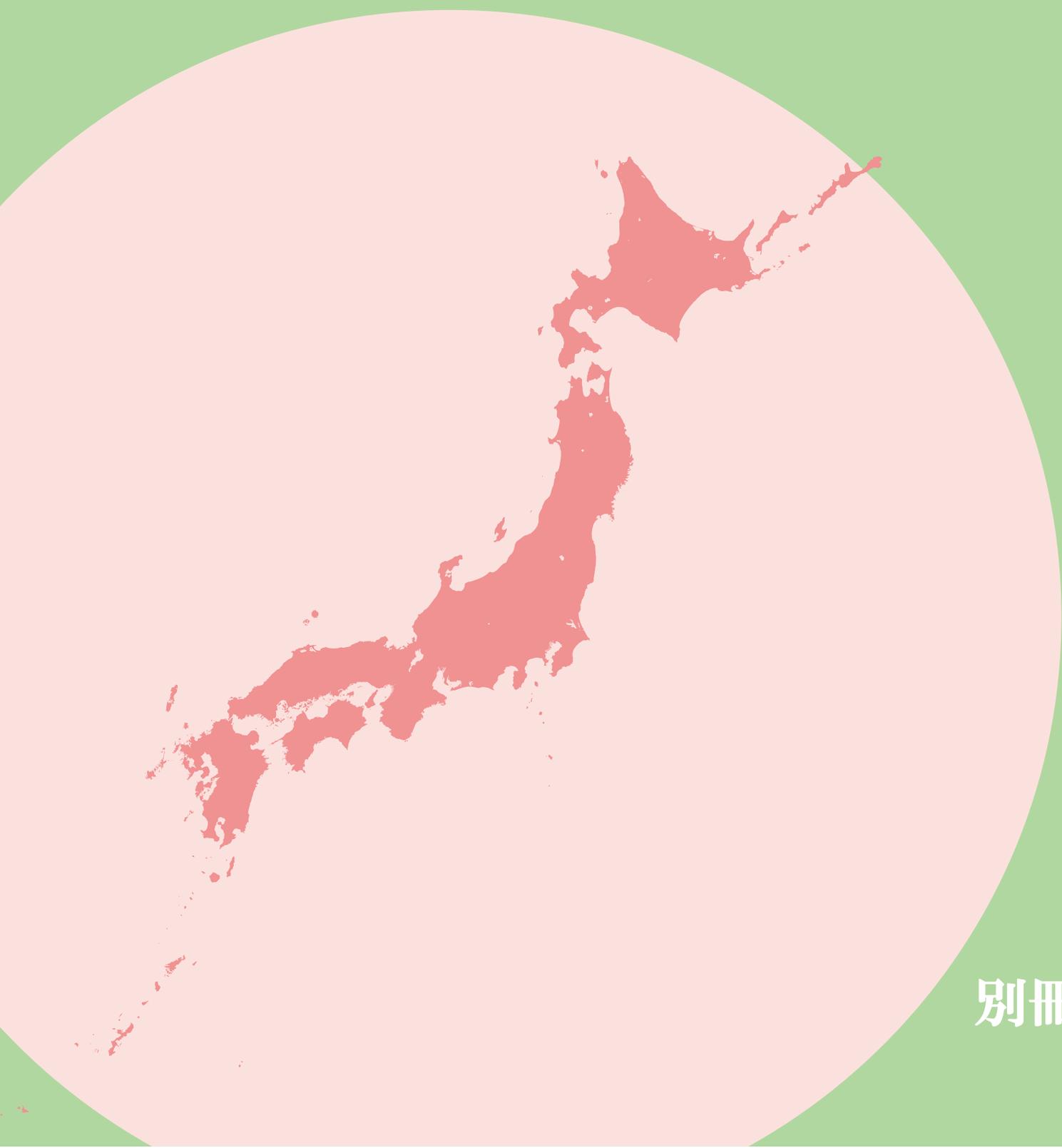


# 日本における 造血細胞移植・細胞治療 2023 年度全国調査報告書

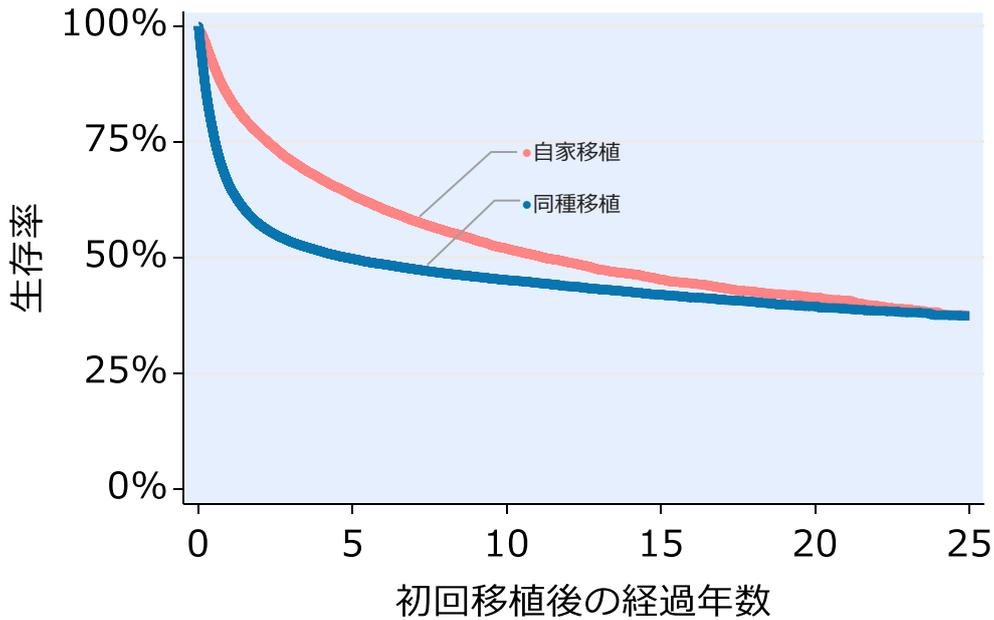


別冊

## 移植後の成績

●●●●●全体●●●●●

1991年～2022年に移植された登録例の生存率（初回移植）

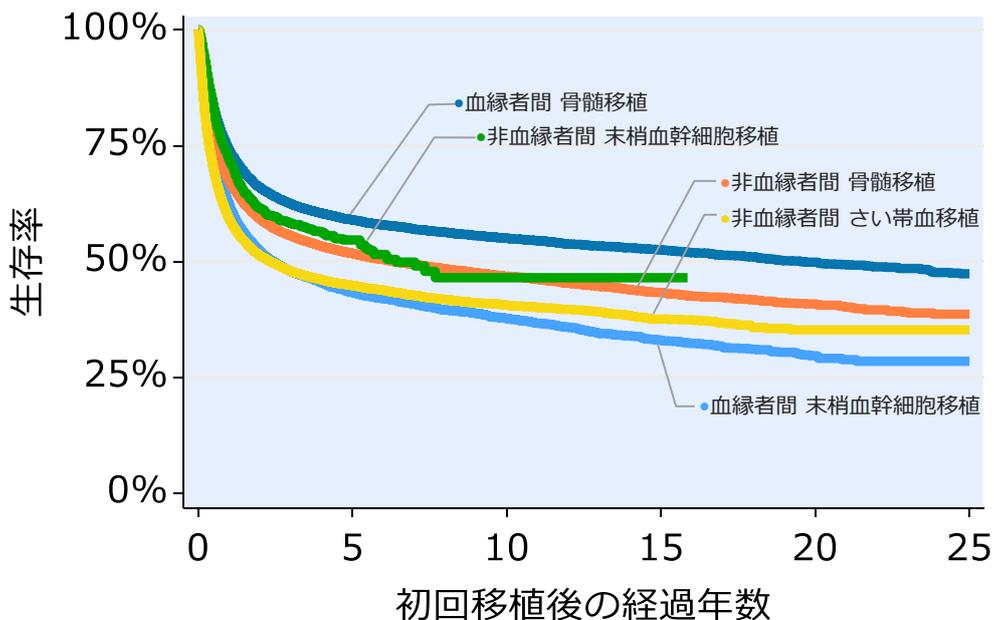


1991年～2022年の初回自家移植の登録件数は40,746件である。自家移植後の5年・10年生存率(95%信頼区間)はそれぞれ63%(63-64%)、52%(51-53%)である。  
 1991年～2022年の初回同種移植の登録件数は66,697件である。同種移植後の5年・10年生存率(95%信頼区間)はそれぞれ50%(49-50%)、45%(45-46%)である。

## 移植後の成績

●●●●●同種移植 幹細胞種類別●●●●●

1991年～2022年に移植された登録例の生存率（初回移植）

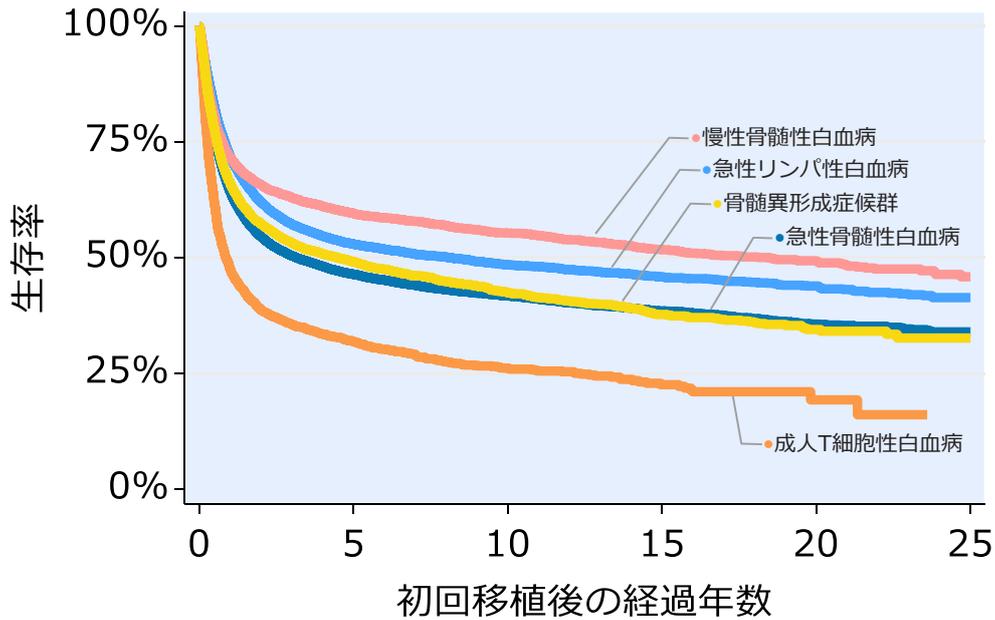


1991年～2022年に実施された幹細胞種類別の同種移植後10年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(12,335件)で55%(54-56%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(13,584件)で38%(37-39%)、非血縁者間骨髄移植(22,530件)で47%(46-47%)、非血縁者間末梢血幹細胞移植(1,499件)で46%(41-52%)、非血縁者間さい帯血移植(16,749件)で41%(40-41%)である。

## 移植後の成績

### ●●●白血病●●●

1991年～2022年に移植された登録例の生存率（初回移植）

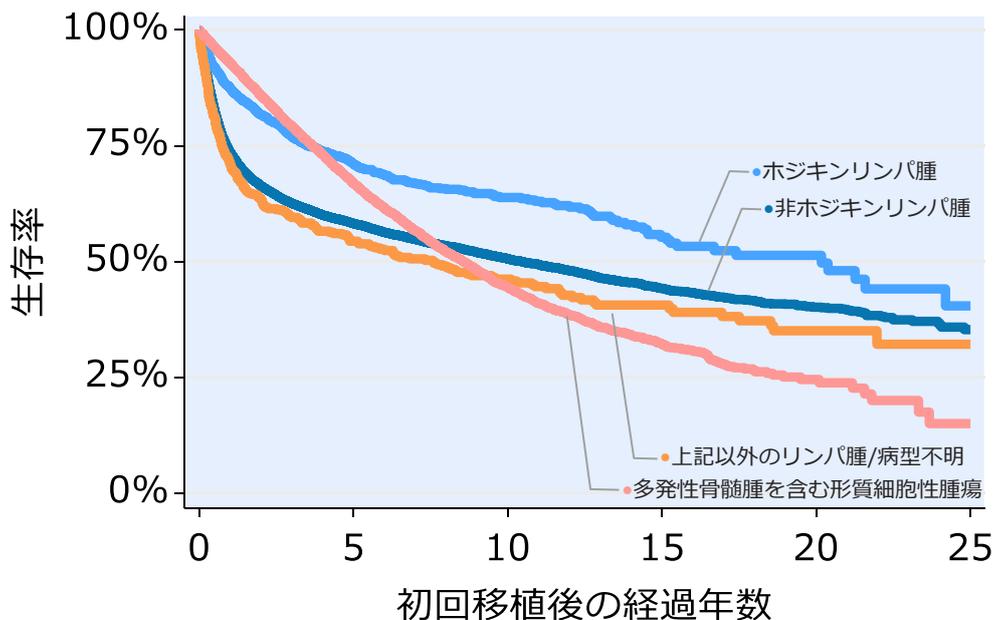


1991年～2022年に実施された疾患別の移植後10年生存率（95%信頼区間）は、急性骨髄性白血病（26,970件）で42%（41-42%）、急性リンパ性白血病（13,942件）で48%（48-49%）、成人T細胞白血病（2,999件）で26%（24-28%）、慢性骨髄性白血病（3,855件）で55%（54-57%）、骨髄異形成症候群（7,560件）で42%（41-44%）である。

## 移植後の成績

### ●●●悪性リンパ腫/多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍●●●

1991年～2022年に移植された登録例の生存率（初回移植）



1991年～2022年に実施された疾患別の移植後10年生存率（95%信頼区間）は、非ホジキンリンパ腫（23,243件）で51%（50-51%）、ホジキンリンパ腫（1,810件）で64%（61-66%）、多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍（13,097件）で44%（43-46%）である。

## 移植後の成績 年齢別

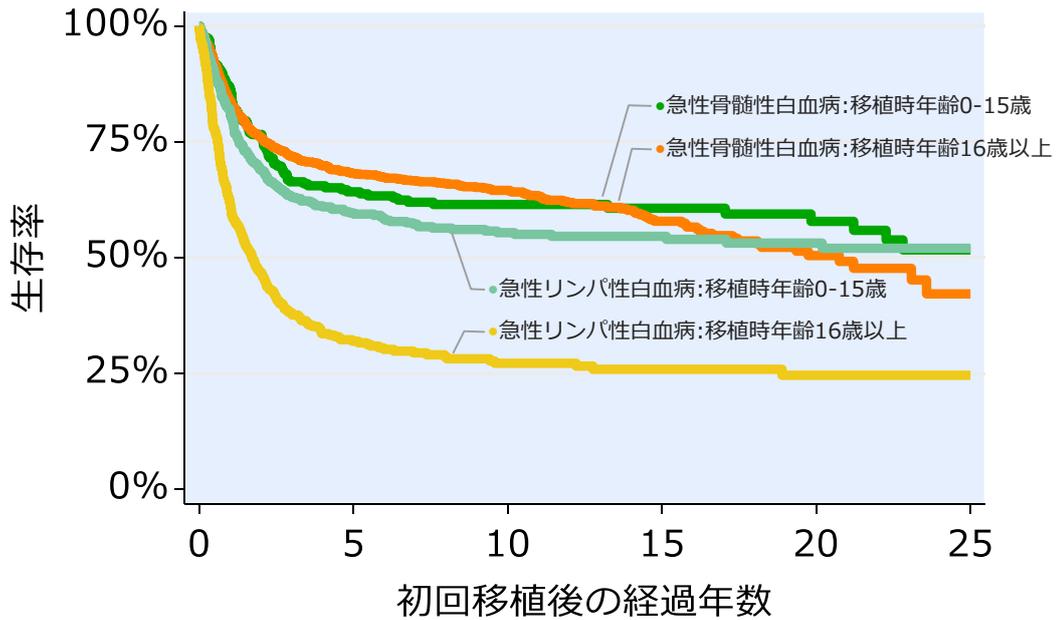
●●●白血病(急性骨髄性白血病/急性リンパ性白血病) ●●●

自家移植

移植時年齢  
0~15歳

16歳以上

1991年~2022年に移植された登録例の生存率 (初回移植)



1991年~2022年に実施された急性骨髄性白血病に対する自家移植後10年生存率(95%信頼区間)は、0-15歳(235件)で61%(55-67%)、16歳以上(1,546件)で65%(62-67%)である。

1991年~2022年に実施された急性リンパ性白血病に対する移植後10年生存率(95%信頼区間)は、0-15歳(393件)で55%(50-60%)、16歳以上(350件)で27%(22-32%)である。

## 移植後の成績 年齢別

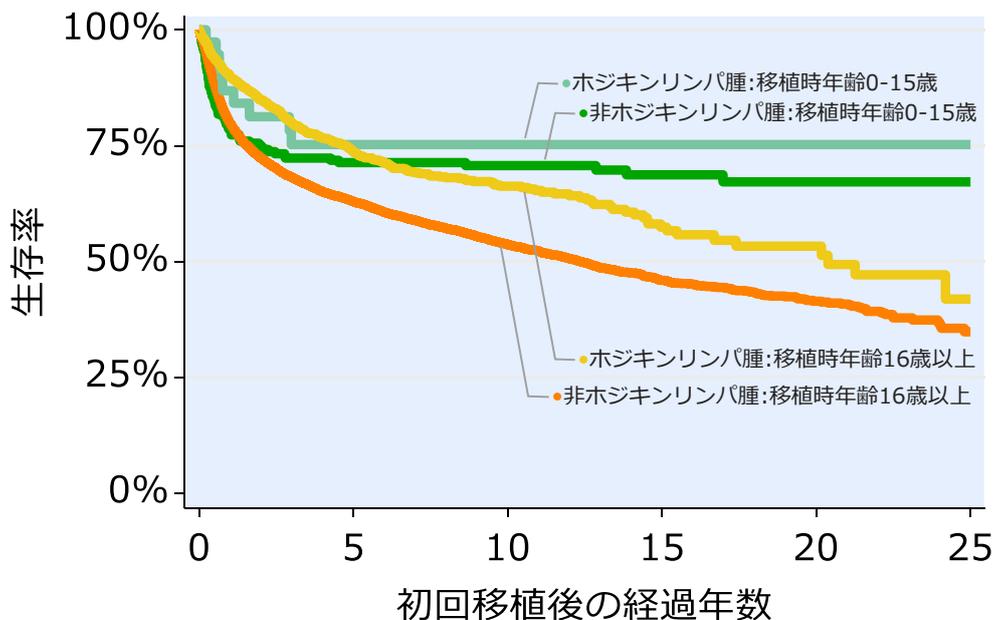
●●●悪性リンパ腫(非ホジキンリンパ腫/ホジキンリンパ腫) ●●●

自家移植

移植時年齢  
0~15歳

16歳以上

1991年~2022年に移植された登録例の生存率 (初回移植)



1991年~2022年に実施された非ホジキンリンパ腫に対する自家移植後10年生存率(95%信頼区間)は、0-15歳(226件)で71%(64-76%)、16歳以上(17,286件)で54%(53-55%)である。

1991年~2022年に実施されたホジキンリンパ腫に対する自家移植後10年生存率(95%信頼区間)は、0-15歳(38件)で75%(58-86%)、16歳以上(1,599件)で66%(63-69%)である。

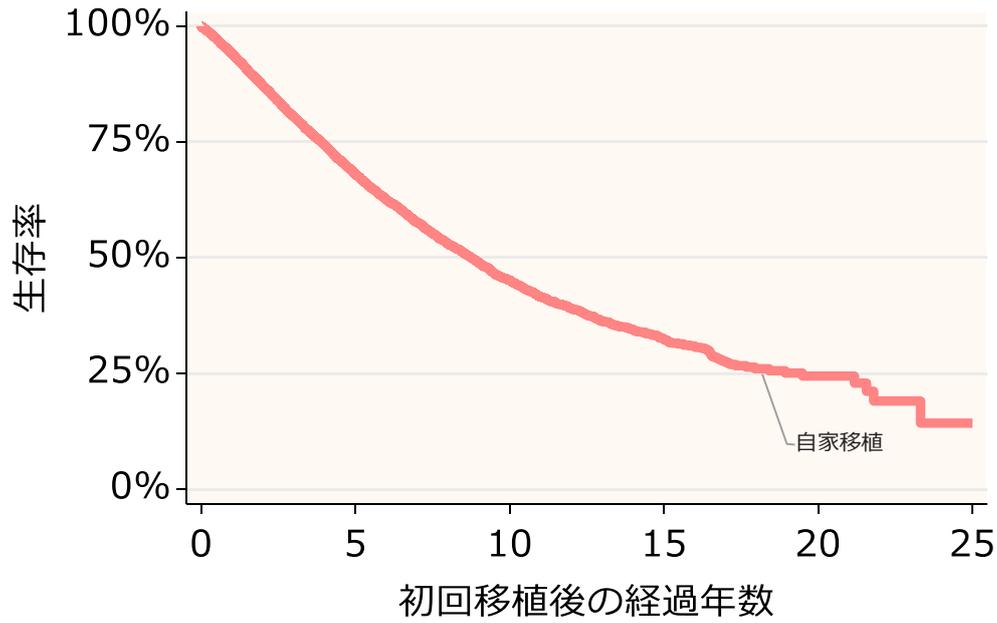
## 移植後の成績

●●●多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍●●●

自家移植

移植時年齢  
16歳以上

1991年～2022年に移植された登録例の生存率（初回移植）



1991年～2022年の16歳以上の多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍に対する初回自家移植の登録件数は12,752件である。自家移植後の5年・10年生存率（95%信頼区間）はそれぞれ68%（67-69%）、45%（44-46%）である。

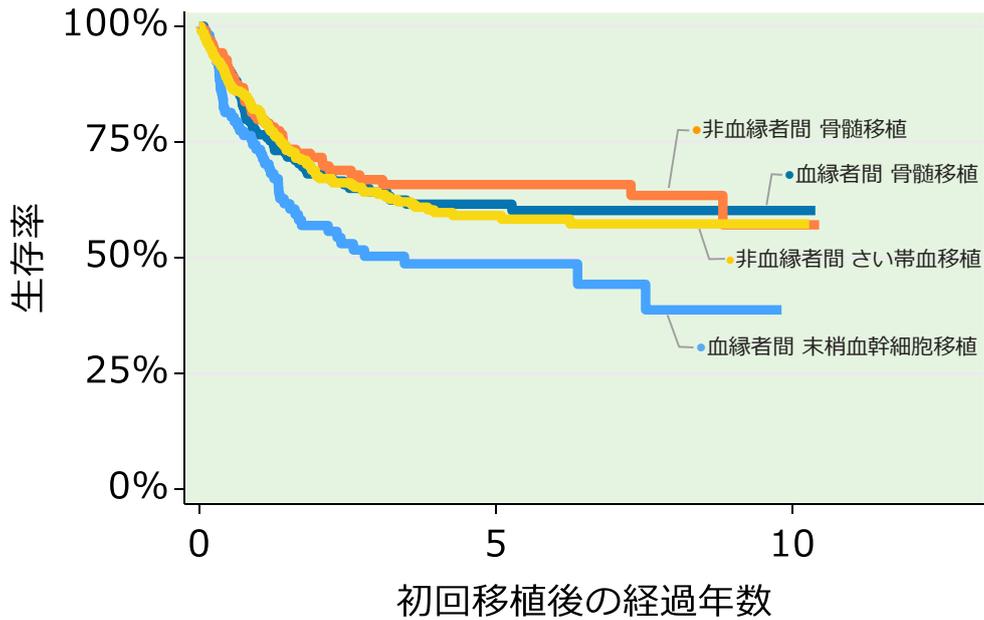
## 移植後の成績

●●●急性骨髄性白血病●●●

同種移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の急性骨髄性白血病に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(161件)で62%(53-69%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(104件)で49%(38-59%)、非血縁者間骨髄移植(140件)で66%(57-73%)、非血縁者間さい帯血移植(281件)で59%(52-65%)である。

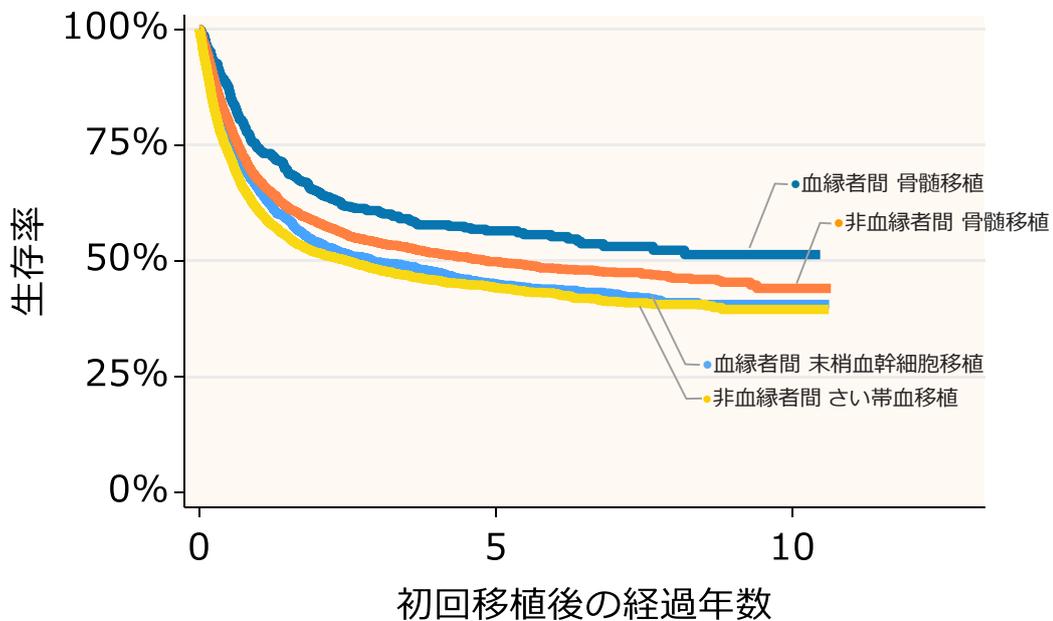
## 移植後の成績

●●●急性骨髄性白血病●●●

同種移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の急性骨髄性白血病に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(549件)で56%(52-61%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(2,877件)で45%(43-47%)、非血縁者間骨髄移植(3,122件)で50%(48-52%)、非血縁者間さい帯血移植(4,401件)で44%(43-46%)である。

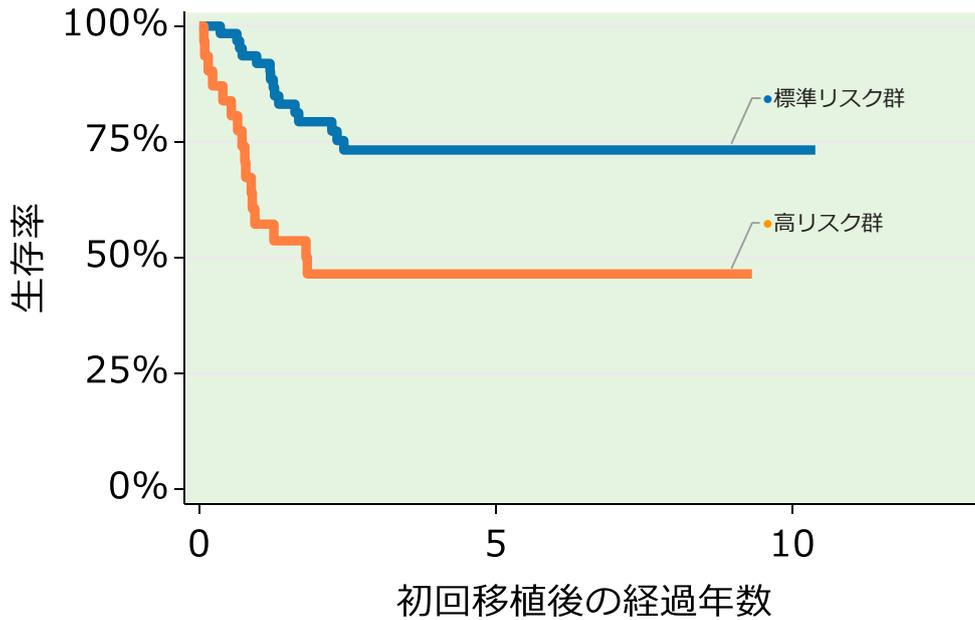
## 移植後の成績

●●●急性骨髄性白血病●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の急性骨髄性白血病に対するHLA適合同胞間移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(63件)で73%(59-83%)、高リスク群(31件)で46%(28-63%)である。

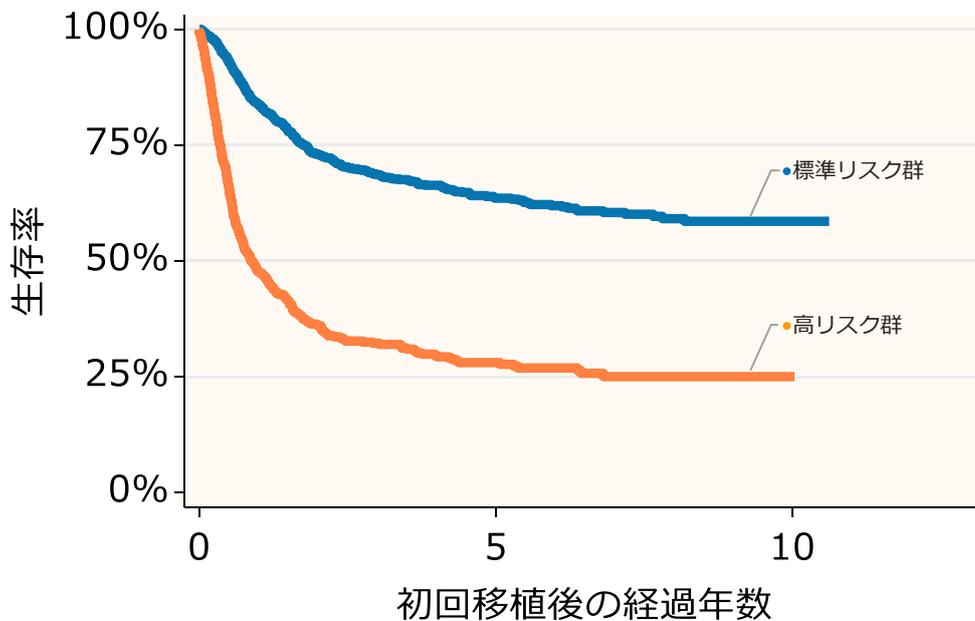
## 移植後の成績

●●●急性骨髄性白血病●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の急性骨髄性白血病に対するHLA適合同胞間移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(1,230件)で64%(60-67%)、高リスク群(601件)で28%(24-32%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群：初回寛解期／第二寛解期

高リスク群：第三以降の寛解期／初回寛解導入不能(PIF)／初発状態(未治療)／再発

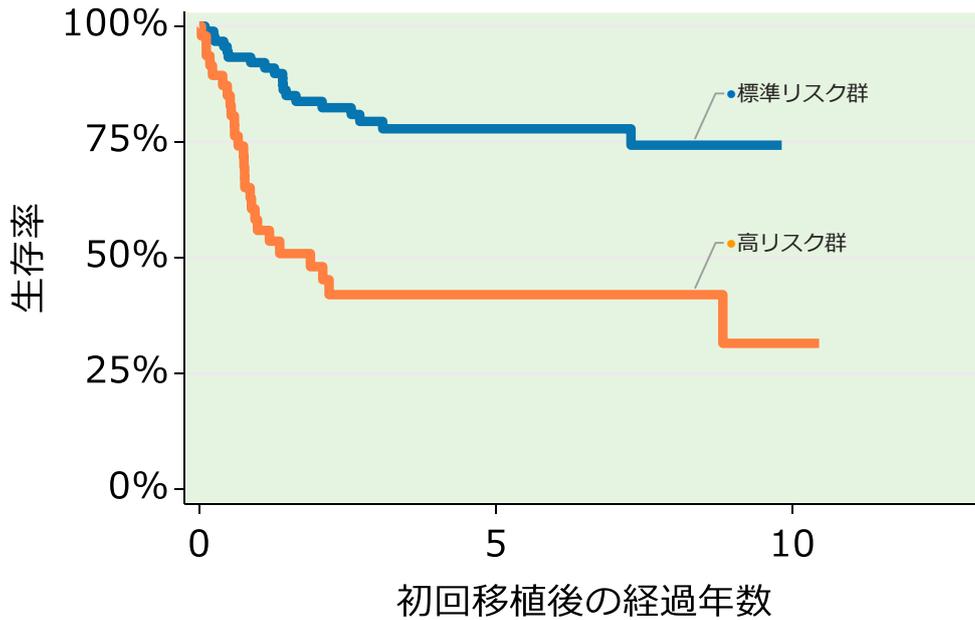
## 移植後の成績

●●●急性骨髄性白血病●●●

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の急性骨髄性白血病に対する非血縁者間骨髄移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(93件)で78%(67-86%)、高リスク群(47件)で42%(27-57%)である。

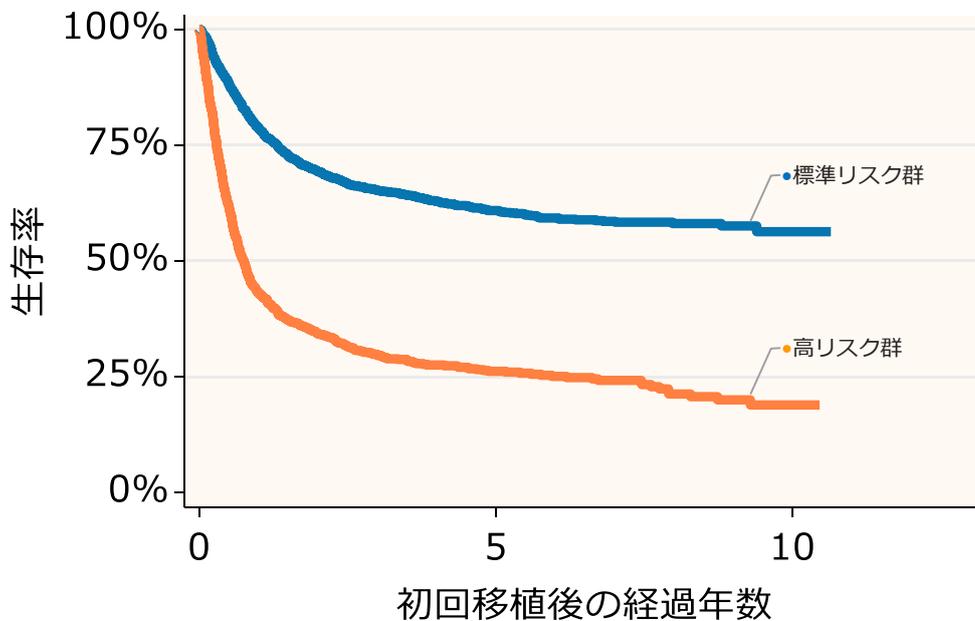
## 移植後の成績

●●●急性骨髄性白血病●●●

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の急性骨髄性白血病に対する非血縁者間骨髄移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(2,133件)で61%(59-63%)、高リスク群(979件)で26%(23-29%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群：初回寛解期／第二寛解期

高リスク群：第三以降の寛解期／初回寛解導入不能(PIF)／初発状態(未治療)／再発

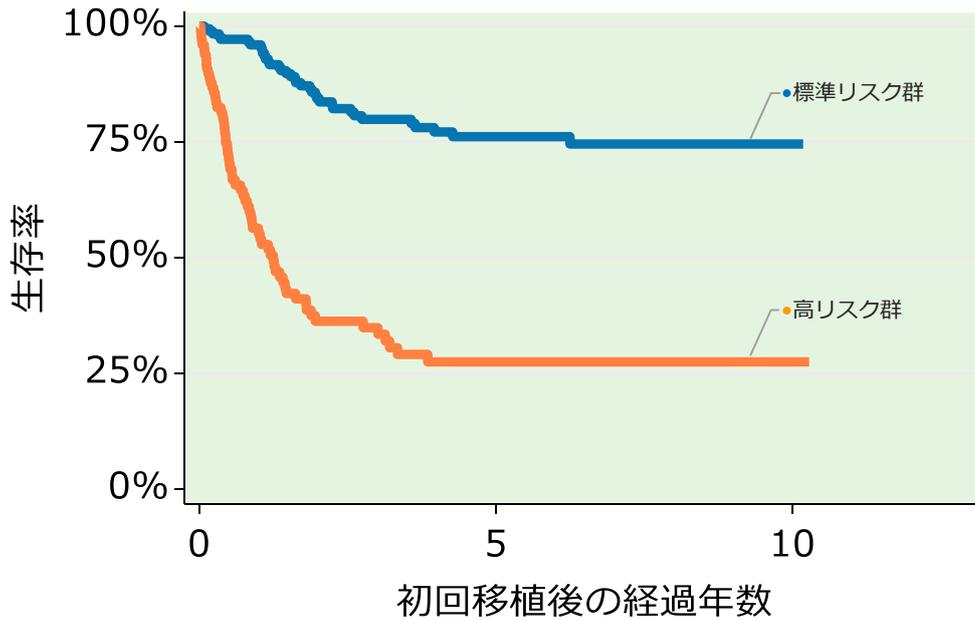
## 移植後の成績

●●●急性骨髄性白血病●●●

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の急性骨髄性白血病に対する非血縁者間さい帯血移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(181件)で76%(68-82%)、高リスク群(98件)で27%(18-38%)である。

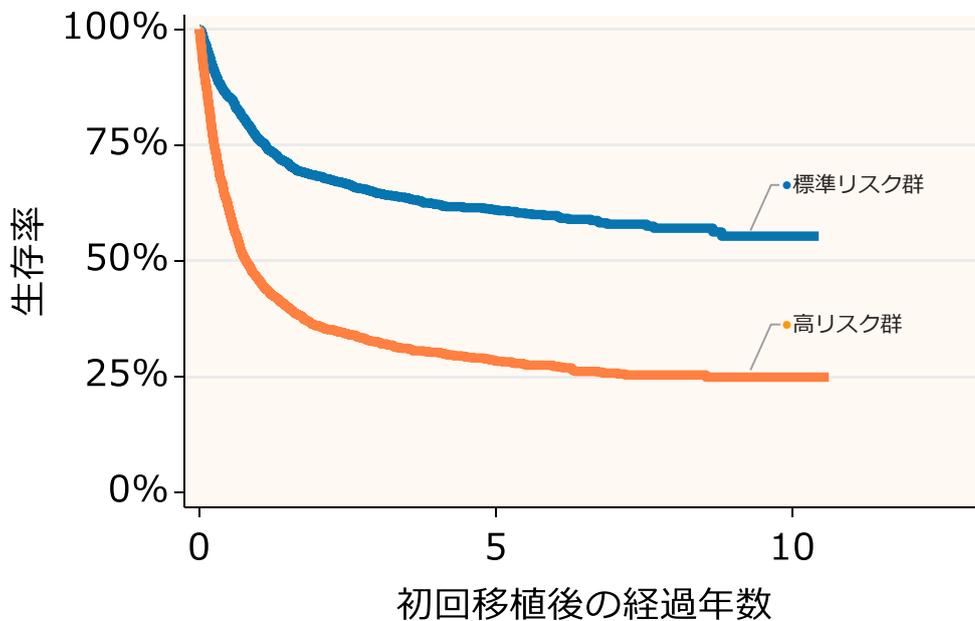
## 移植後の成績

●●●急性骨髄性白血病●●●

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の急性骨髄性白血病に対する非血縁者間さい帯血移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(2,164件)で61%(59-63%)、高リスク群(2,235件)で28%(26-31%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群：初回寛解期／第二寛解期

高リスク群：第三以降の寛解期／初回寛解導入不能(PIF)／初発状態(未治療)／再発

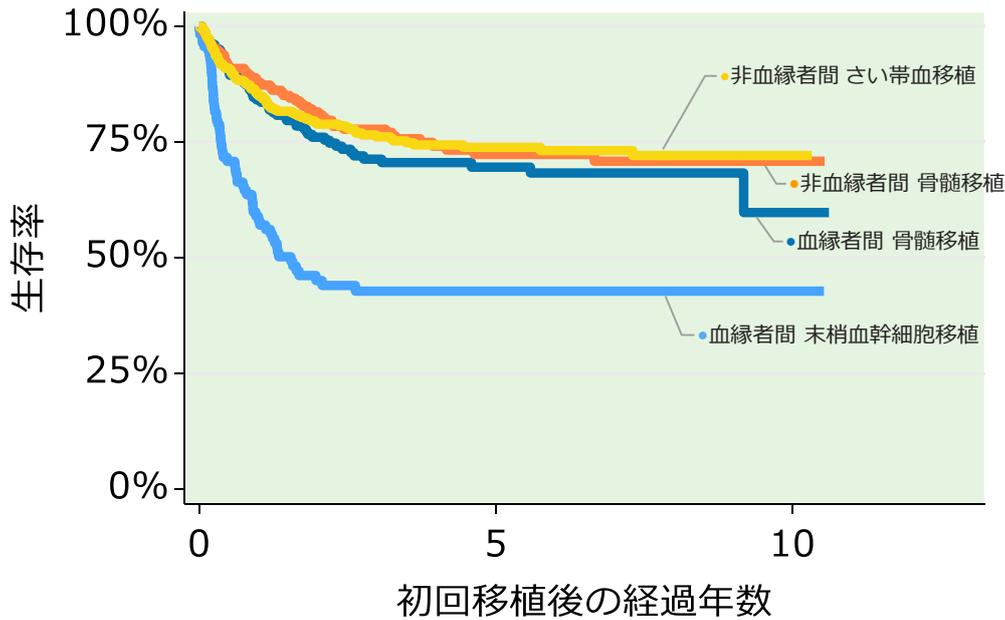
## 移植後の成績

●●●●急性リンパ性白血病●●●●

同種移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の急性リンパ性白血病に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(202件)で70%(62-76%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(113件)で43%(33-52%)、非血縁者間骨髄移植(212件)で72%(65-78%)、非血縁者間さい帯血移植(358件)で74%(68-78%)である。

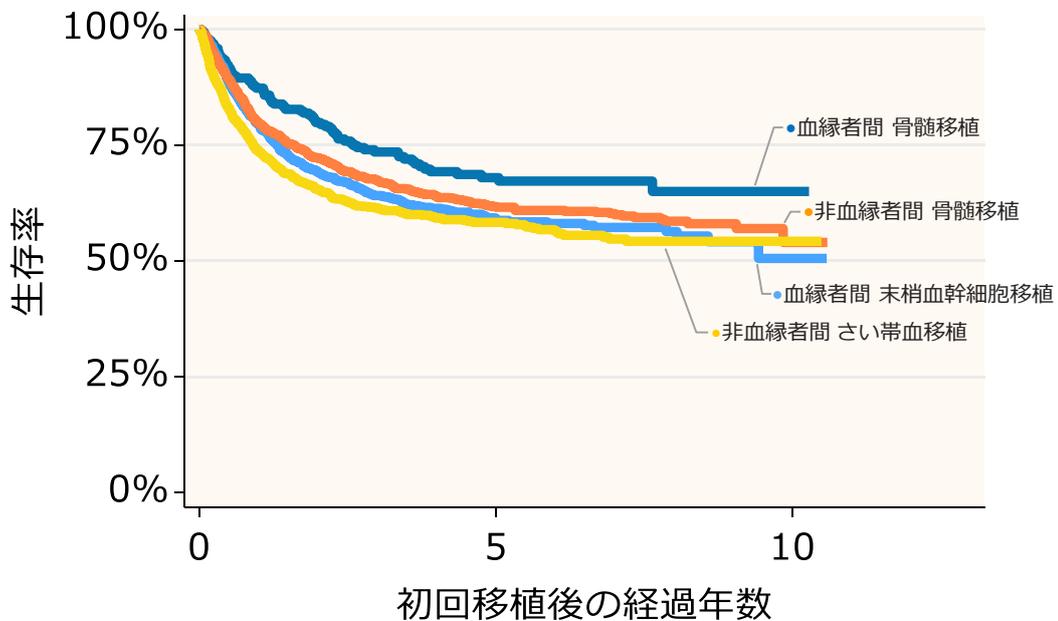
## 移植後の成績

●●●●急性リンパ性白血病●●●●

同種移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の急性リンパ性白血病に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(292件)で68%(62-74%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(1,108件)で59%(55-62%)、非血縁者間骨髄移植(1,538件)で62%(59-64%)、非血縁者間さい帯血移植(1,267件)で58%(55-61%)である。

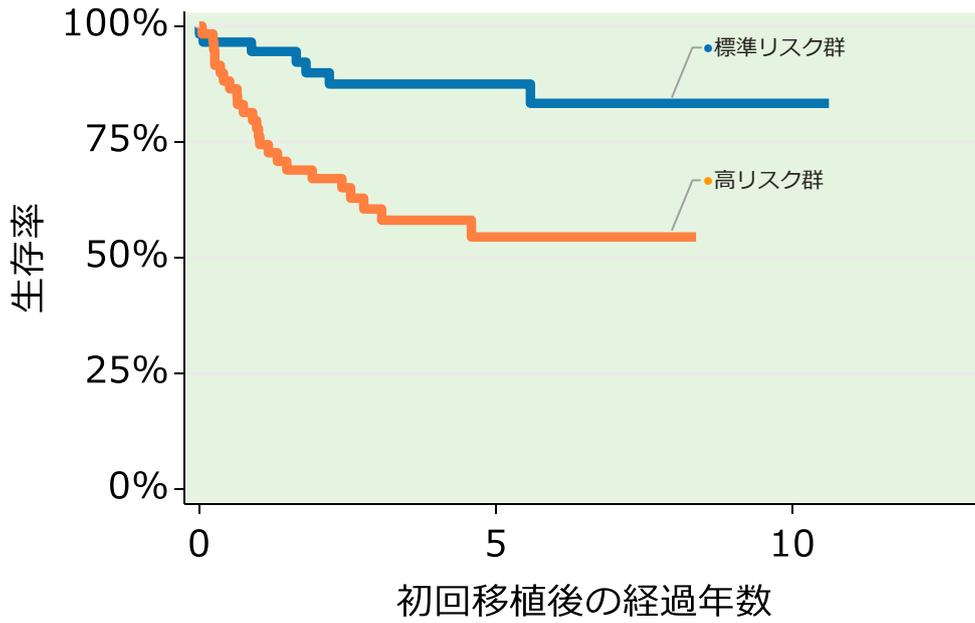
## 移植後の成績

●●●急性リンパ性白血病●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の急性リンパ性白血病に対するHLA適合同胞間移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(58件)で88%(74-94%)、高リスク群(60件)で54%(39-67%)である。

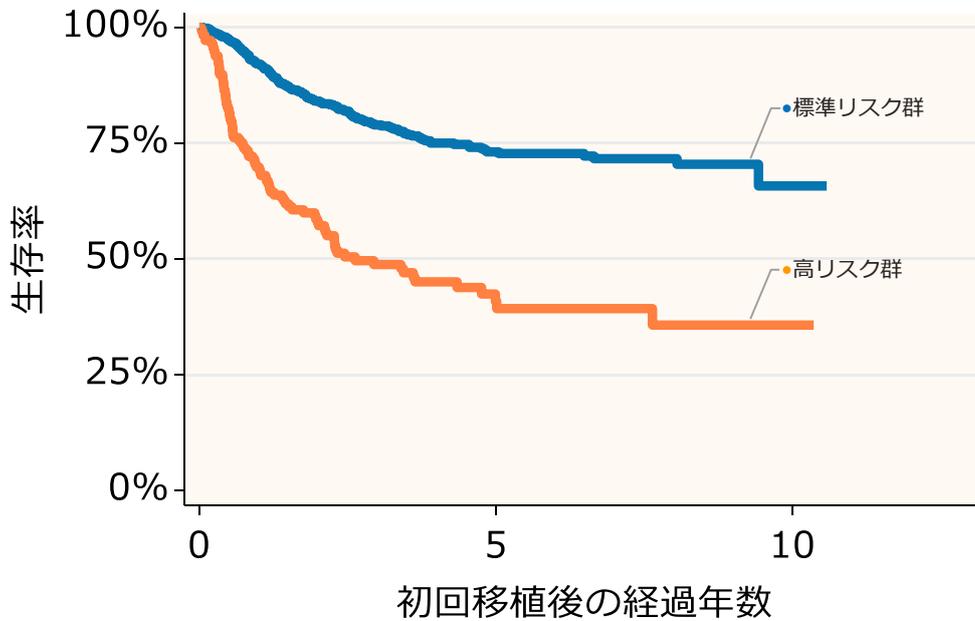
## 移植後の成績

●●●急性リンパ性白血病●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の急性リンパ性白血病に対するHLA適合同胞間移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(655件)で73%(69-77%)、高リスク群(179件)で41%(32-49%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群: 初回寛解期

高リスク群: 第二以降の寛解期 / 初回寛解導入不能(PF) / 初回寛解導入不能(髄外病変のみ) / 初発状態(未治療) / 再発

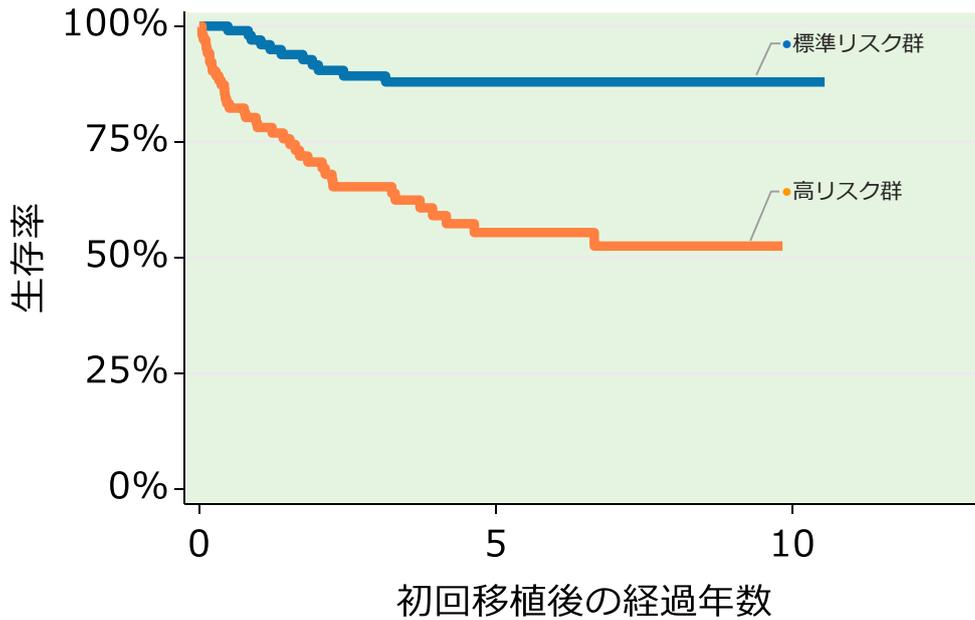
## 移植後の成績

●●●急性リンパ性白血病●●●

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の急性リンパ性白血病に対する非血縁者間骨髄移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(109件)で88%(79-93%)、高リスク群(103件)で55%(44-66%)である。

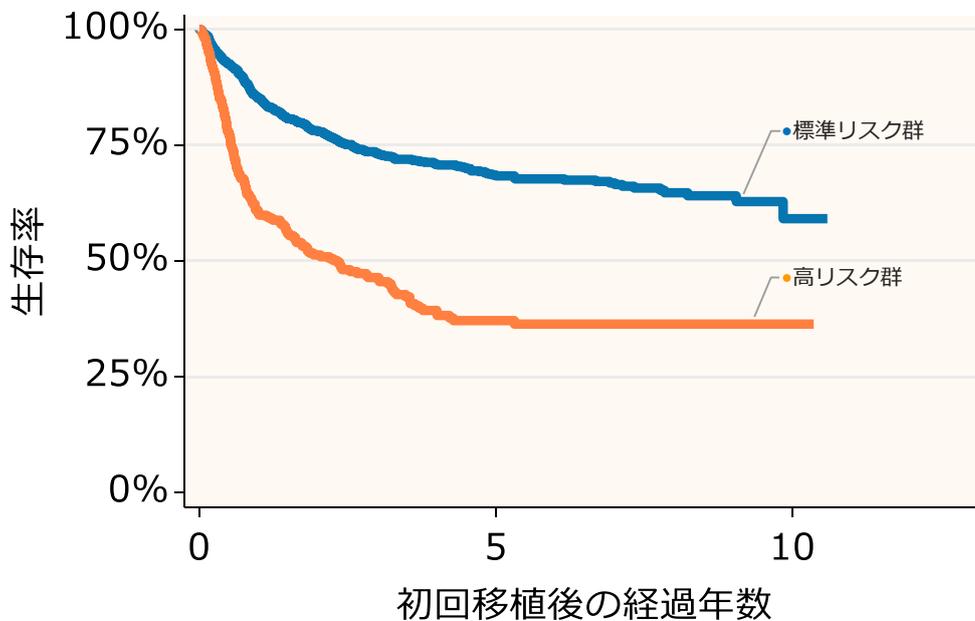
## 移植後の成績

●●●急性リンパ性白血病●●●

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の急性リンパ性白血病に対する非血縁者間骨髄移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(1,196件)で69%(65-71%)、高リスク群(342件)で37%(31-43%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群: 初回寛解期

高リスク群: 第二以降の寛解期/初回寛解導入不能(PF)/初回寛解導入不能(髄外病変のみ)/初発状態(未治療)/再発

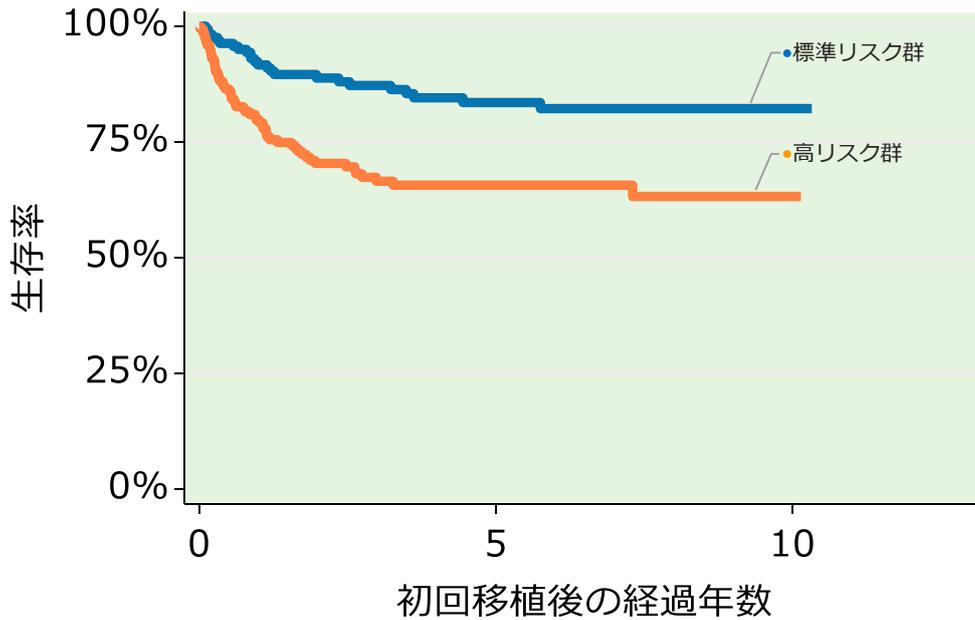
## 移植後の成績

●●●急性リンパ性白血病●●●

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の急性リンパ性白血病に対する非血縁者間さい帯血移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(163件)で84%(76-89%)、高リスク群(195件)で66%(58-72%)である。

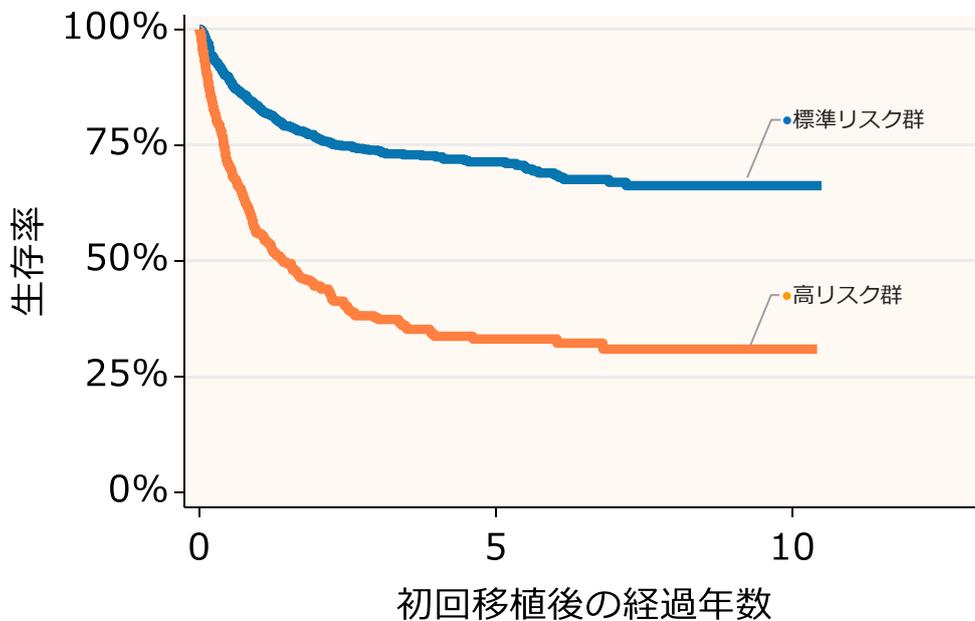
## 移植後の成績

●●●急性リンパ性白血病●●●

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の急性リンパ性白血病に対する非血縁者間さい帯血移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(824件)で71%(68-75%)、高リスク群(442件)で33%(28-38%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群: 初回寛解期

高リスク群: 第二以降の寛解期 / 初回寛解導入不能(PF) / 初回寛解導入不能(髄外病変のみ) / 初発状態(未治療) / 再発

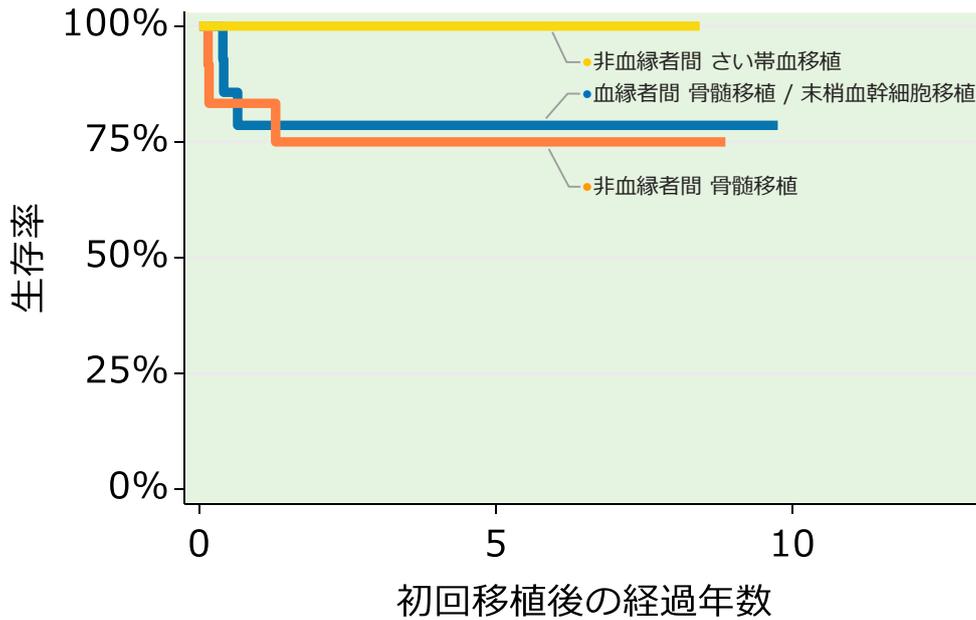
## 移植後の成績

慢性骨髄性白血病

同種移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の慢性骨髄性白血病に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植/末梢血幹細胞移植(14件)で79%(47-93%)、非血縁者間骨髄移植(12件)で75%(41-91%)、非血縁者間さい帯血移植(7件)で100%である。

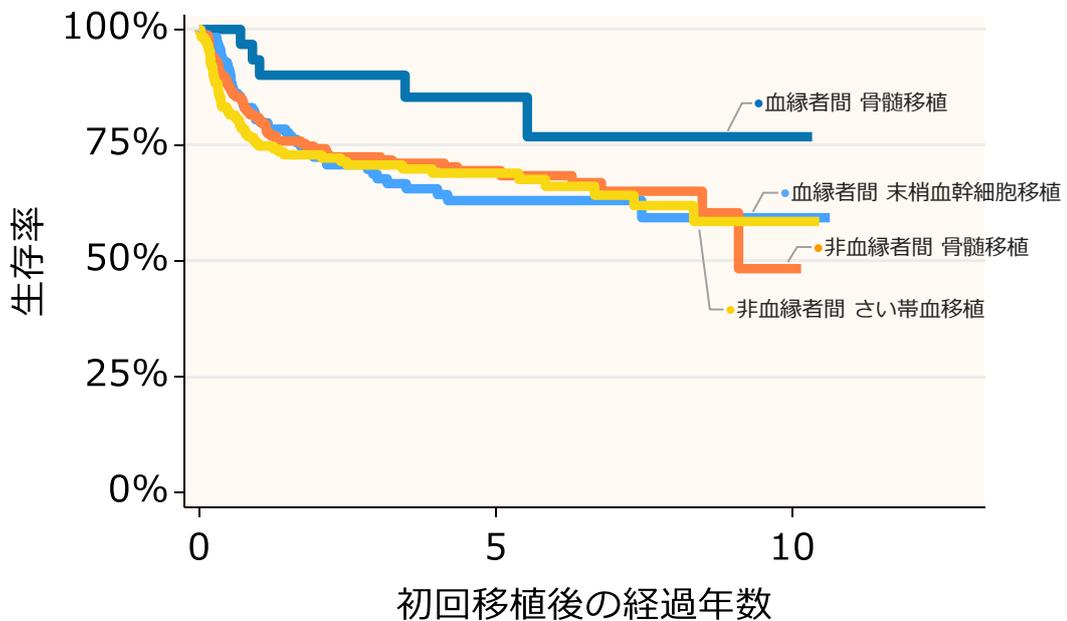
## 移植後の成績

慢性骨髄性白血病

同種移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の慢性骨髄性白血病に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(34件)で85%(65-94%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(174件)で63%(54-71%)、非血縁者間骨髄移植(229件)で70%(62-76%)、非血縁者間さい帯血移植(181件)で69%(61-75%)である。

## 移植後の成績

●●●慢性骨髄性白血病●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)

※症例数が極めて少ないため省略

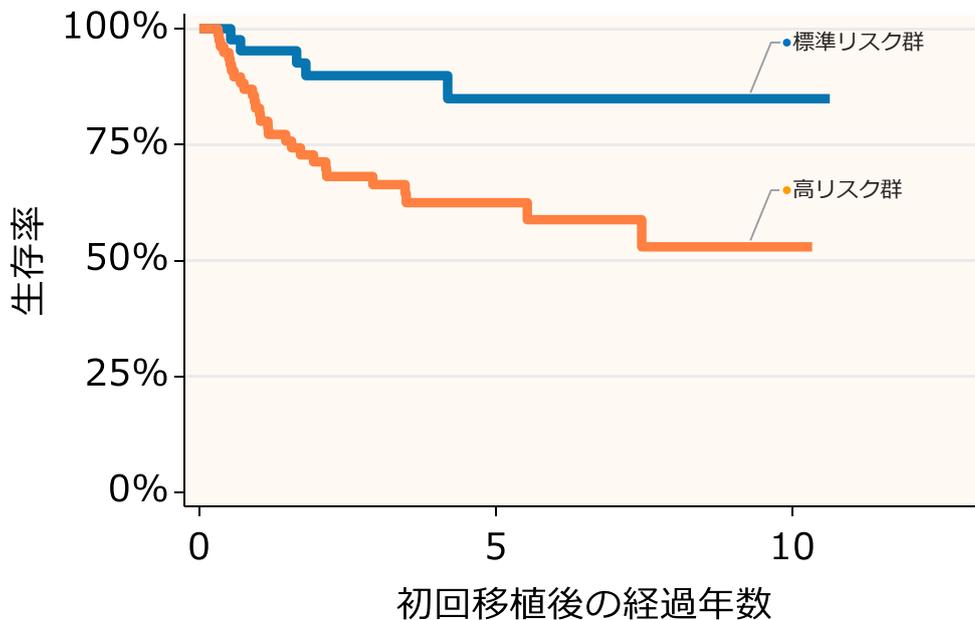
## 移植後の成績

●●●慢性骨髄性白血病●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の慢性骨髄性白血病に対するHLA適合同胞間移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(46件)で85%(66-94%)、高リスク群(80件)で62%(50-73%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群: 完全血液学的反応(CHR)/初回慢性期

高リスク群: 第二以降の慢性期/移行期/急性転化期

## 移植後の成績

### 慢性骨髄性白血病

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)

※症例数が極めて少ないため省略

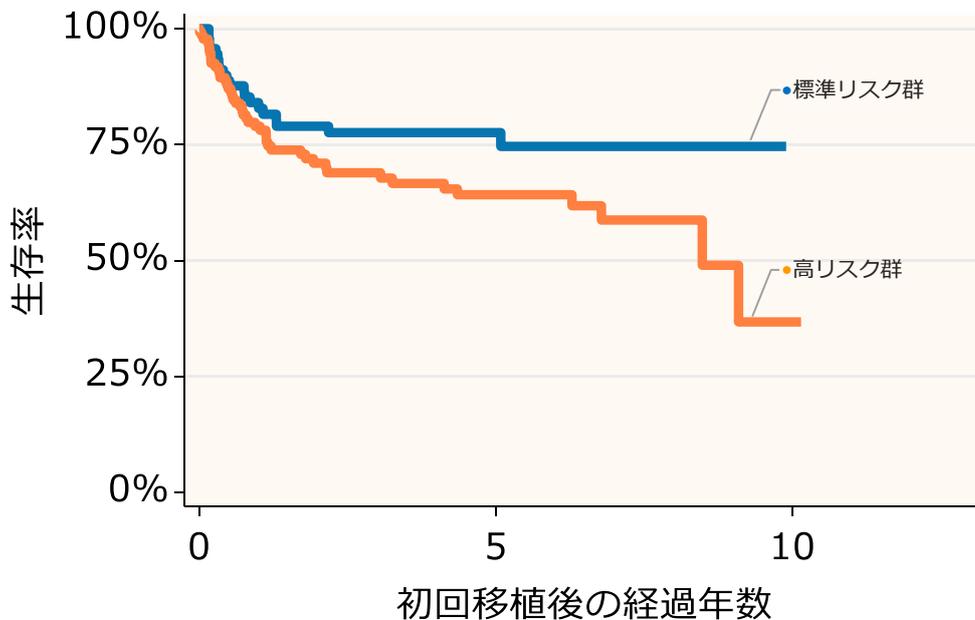
## 移植後の成績

### 慢性骨髄性白血病

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の慢性骨髄性白血病に対する非血縁者間骨髄移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(94件)で78%(67-85%)、高リスク群(135件)で64%(54-72%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群: 完全血液学的反応(CHR)/初回慢性期

高リスク群: 第二以降の慢性期/移行期/急性転化期

## 移植後の成績

慢性骨髄性白血病

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)

※症例数が極めて少ないため省略

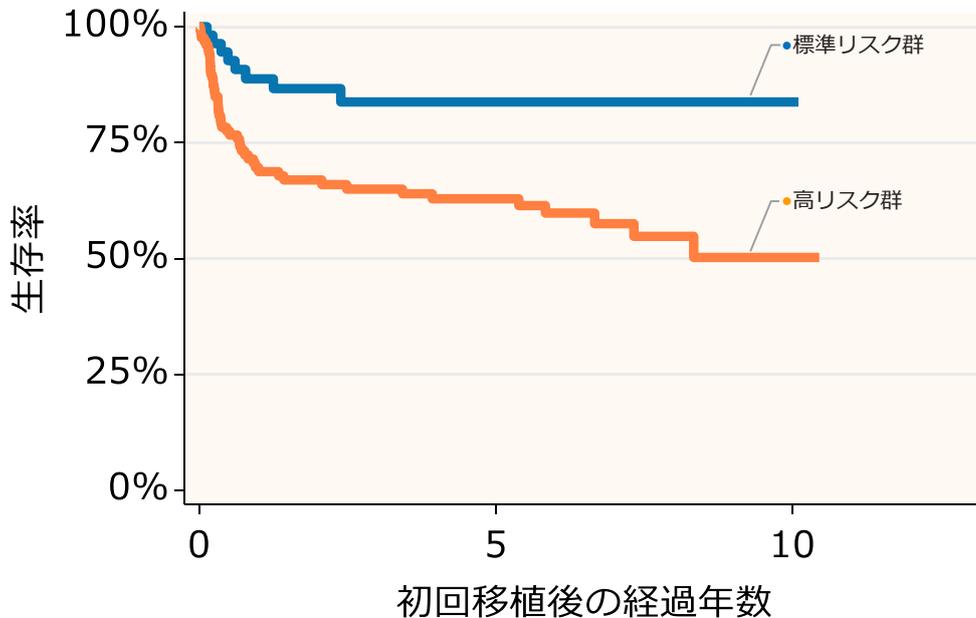
## 移植後の成績

慢性骨髄性白血病

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の慢性骨髄性白血病に対する非血縁者間さい帯血移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(55件)で84%(70-92%)、高リスク群(126件)で63%(53-71%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群: 完全血液学的反応(CHR)/初回慢性期

高リスク群: 第二以降の慢性期/移行期/急性転化期

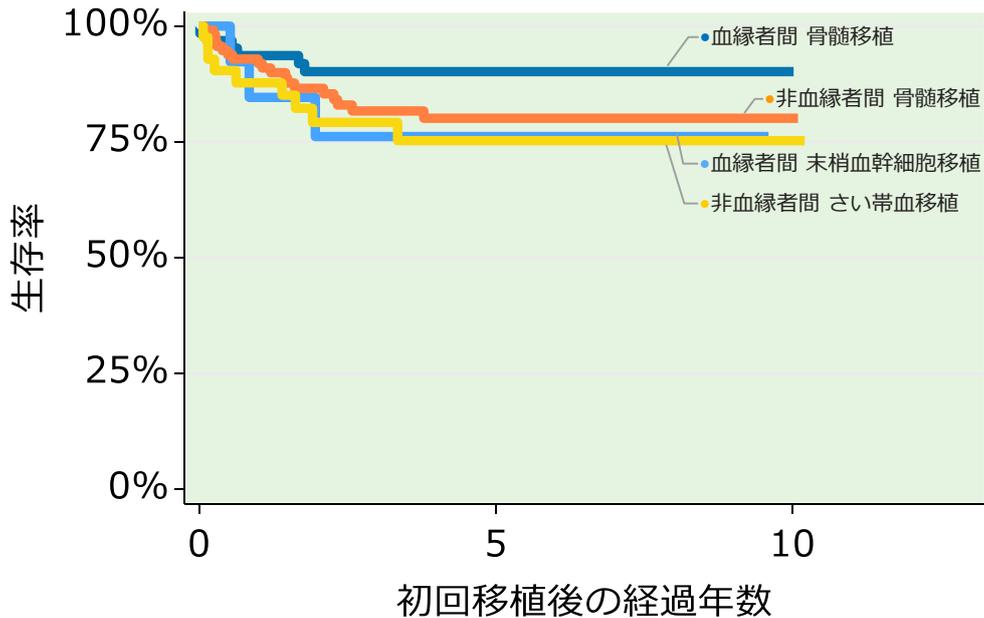
## 移植後の成績

●●●●● 骨髄異形成症候群 ●●●●●

同種移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の骨髄異形成症候群に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(64件)で90%(79-95%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(14件)で76%(43-92%)、非血縁者間骨髄移植(115件)で80%(70-87%)、非血縁者間さい帯血移植(42件)で75%(57-87%)である。

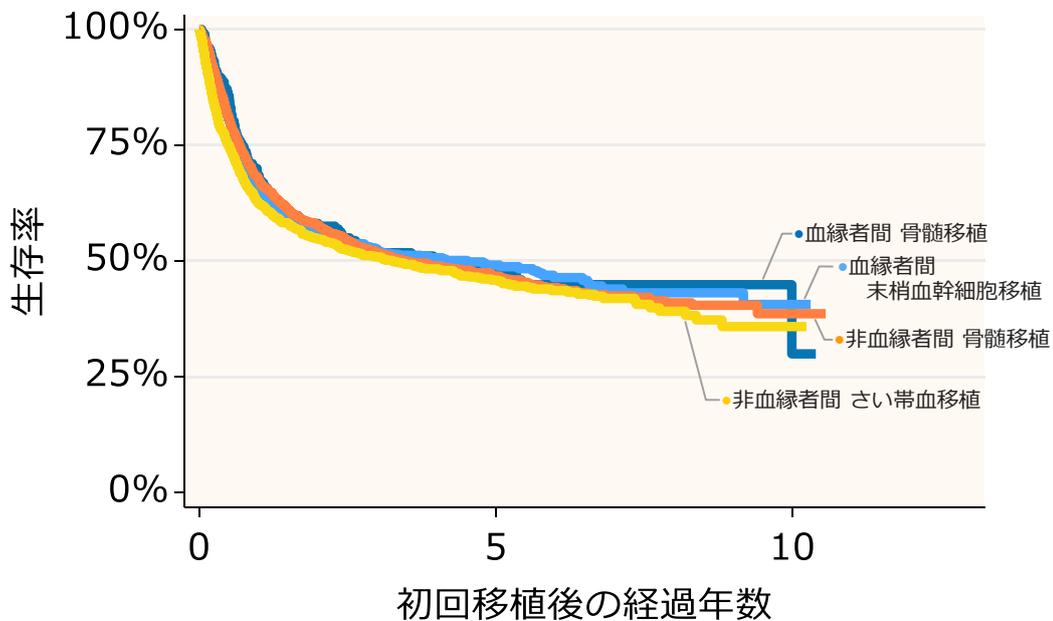
## 移植後の成績

●●●●● 骨髄異形成症候群 ●●●●●

同種移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の骨髄異形成症候群に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(204件)で48%(40-55%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(821件)で49%(45-53%)、非血縁者間骨髄移植(1,529件)で47%(44-49%)、非血縁者間さい帯血移植(1,158件)で46%(43-49%)である。

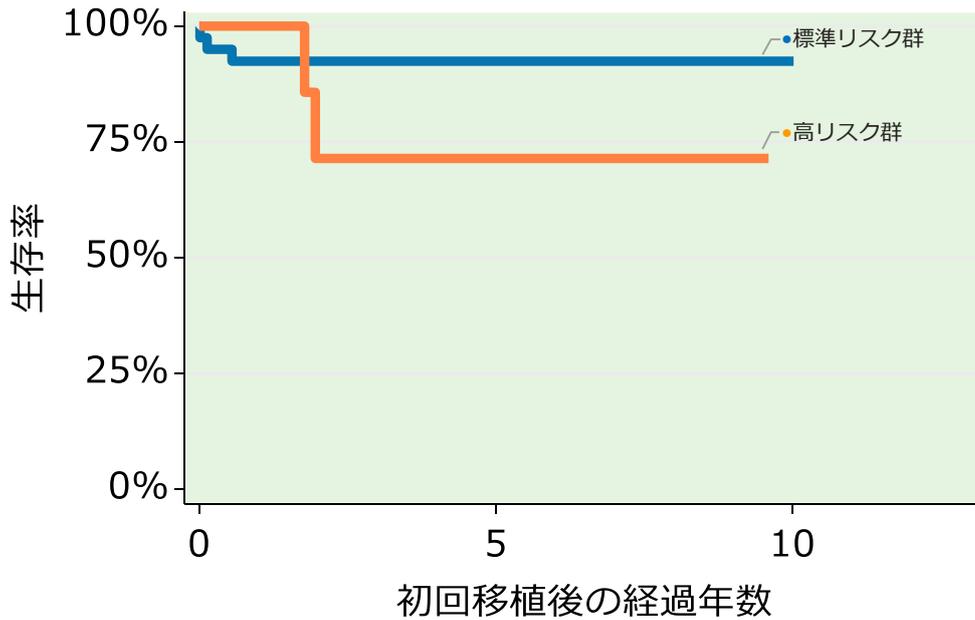
## 移植後の成績

●●●●● 骨髄異形成症候群 ●●●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の骨髄異形成症候群に対するHLA適合同胞間移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(40件)で92%(78-98%)、高リスク群(7件)で71%(26-92%)である。

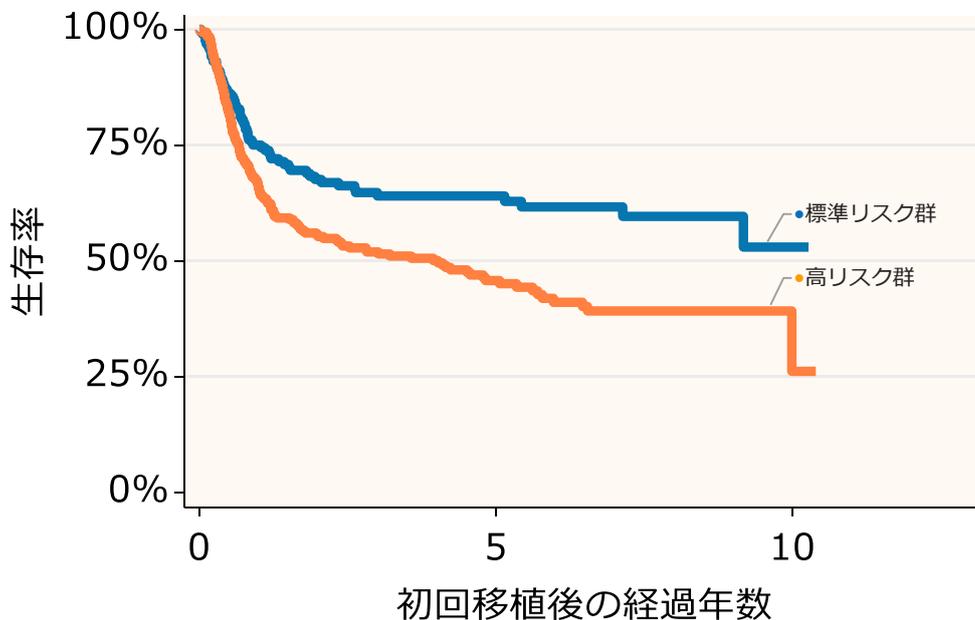
## 移植後の成績

●●●●● 骨髄異形成症候群 ●●●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の骨髄異形成症候群に対するHLA適合同胞間移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(189件)で64%(56-71%)、高リスク群(334件)で46%(40-52%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群:[WHO2017分類]

MDS with single lineage dysplasia/MDS-RS and single lineage dysplasia/MDS-RS and multilineage dysplasia/MDS with multilineage dysplasia/MDS with isolated del(5q)/MDS, unclassifiable/Refractory cytopenia of childhood (provisional entity)

[WHO旧分類・FAB分類]

RA/RARS/RCMD/RCMD-RS/5q-syndrome

高リスク群:[WHO2017分類]

MDS with excess blasts-1 (MDS-EB-1)/MDS with excess blasts-2 (MDS-EB-2)

[WHO旧分類・FAB分類]

RAEB/RAEB+/RAEB-1/RAEB-2

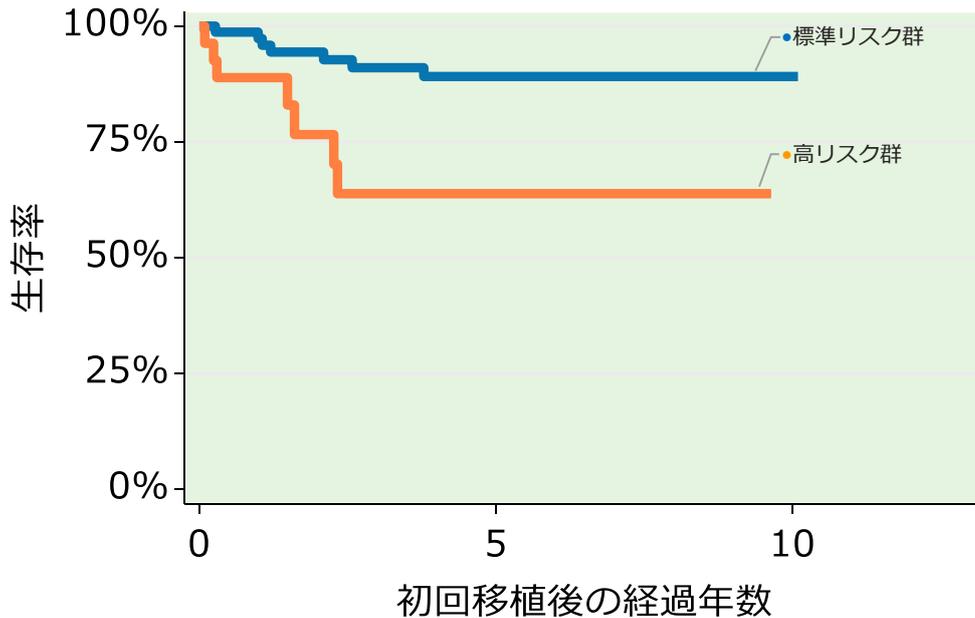
## 移植後の成績

●●●●● 骨髄異形成症候群 ●●●●●

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の骨髄異形成症候群に対する非血縁者間骨髄移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(78件)で89%(78-95%)、高リスク群(27件)で64%(37-82%)である。

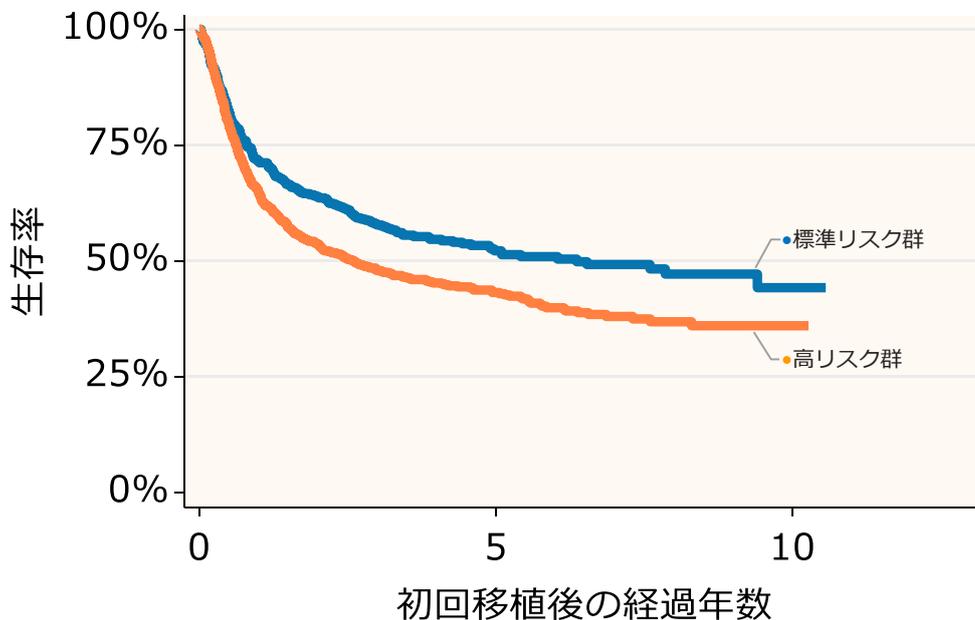
## 移植後の成績

●●●●● 骨髄異形成症候群 ●●●●●

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の骨髄異形成症候群に対する非血縁者間骨髄移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(540件)で52%(47-57%)、高リスク群(943件)で43%(40-47%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群:[WHO2017分類]

MDS with single lineage dysplasia/MDS-RS and single lineage dysplasia/MDS-RS and multilineage dysplasia/MDS with multilineage dysplasia/MDS with isolated del(5q)/MDS, unclassifiable/Refractory cytopenia of childhood (provisional entity)

[WHO旧分類・FAB分類]

RA/RARS/RCMD/RCMD-RS/5q-syndrome

高リスク群:[WHO2017分類]

MDS with excess blasts-1 (MDS-EB-1)/MDS with excess blasts-2 (MDS-EB-2)

[WHO旧分類・FAB分類]

RAEB/RAEB+ / RAEB-1/RAEB-2

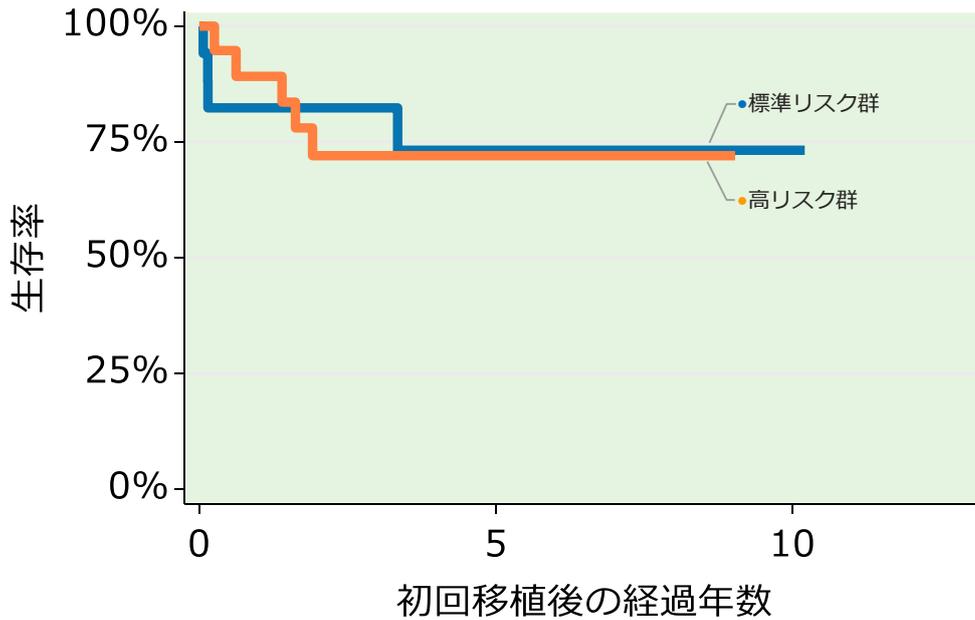
## 移植後の成績

●●●●● 骨髄異形成症候群 ●●●●●

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の骨髄異形成症候群に対する非血縁者間さい帯血移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(17件)で73%(42-89%)、高リスク群(20件)で72%(45-87%)である。

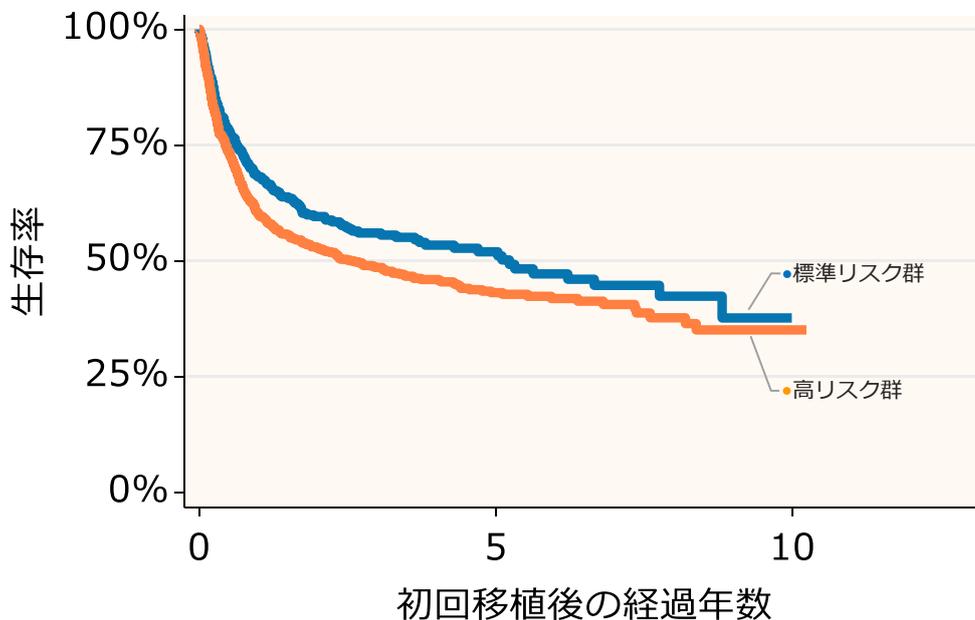
## 移植後の成績

●●●●● 骨髄異形成症候群 ●●●●●

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の骨髄異形成症候群に対する非血縁者間さい帯血移植後5年生存率(95%信頼区間)は、標準リスク群(354件)で52%(46-58%)、高リスク群(779件)で43%(39-47%)である。

移植時病期に基づくリスク分類

標準リスク群:[WHO2017分類]

MDS with single lineage dysplasia/MDS-RS and single lineage dysplasia/MDS-RS and multilineage dysplasia/MDS with multilineage dysplasia/MDS with isolated del(5q)/MDS, unclassifiable/Refractory cytopenia of childhood (provisional entity)

[WHO旧分類・FAB分類]

RA/RARS/RCMD/RCMD-RS/5q-syndrome

高リスク群:[WHO2017分類]

MDS with excess blasts-1 (MDS-EB-1)/MDS with excess blasts-2 (MDS-EB-2)

[WHO旧分類・FAB分類]

RAEB/RAEB+ /RAEB-1/RAEB-2

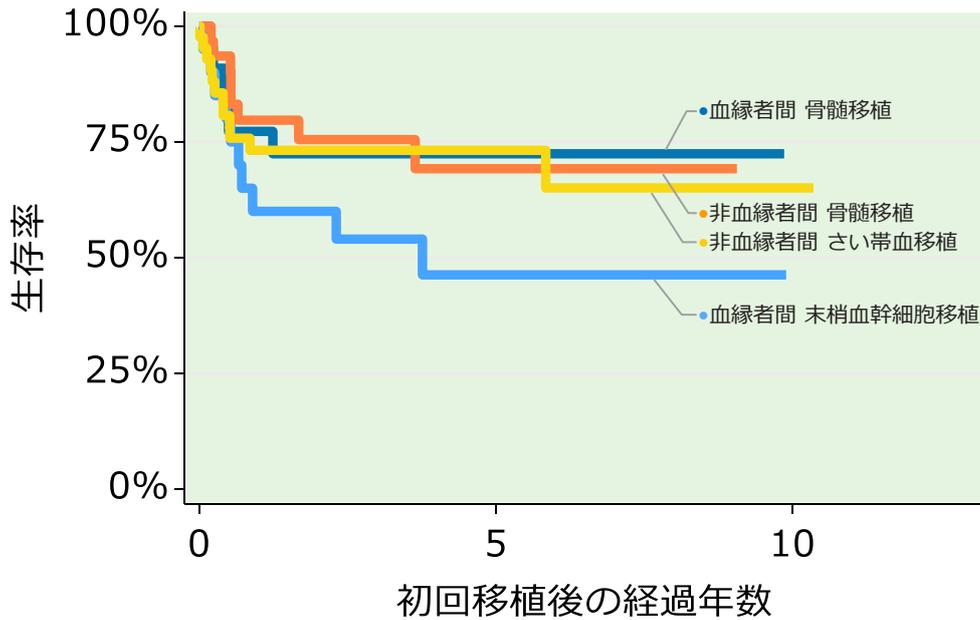
## 移植後の成績

●●●●●非ホジキンリンパ腫●●●●●

同種移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の非ホジキンリンパ腫に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(22件)で72%(49-87%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(20件)で46%(22-67%)、非血縁者間骨髄移植(31件)で69%(46-84%)、非血縁者間さい帯血移植(42件)で73%(57-84%)である。

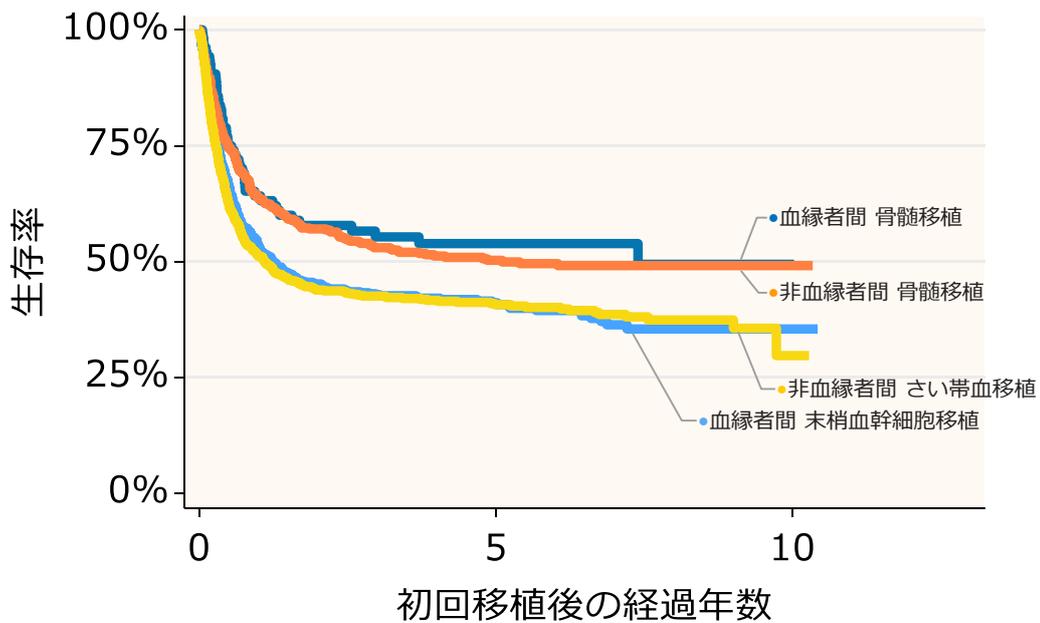
## 移植後の成績

●●●●●非ホジキンリンパ腫●●●●●

同種移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の非ホジキンリンパ腫に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(106件)で54%(43-63%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(787件)で41%(37-45%)、非血縁者間骨髄移植(547件)で50%(46-55%)、非血縁者間さい帯血移植(873件)で41%(37-44%)である。

## 移植後の成績

●●●非ホジキンリンパ腫●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)

※症例数が極めて少ないため省略

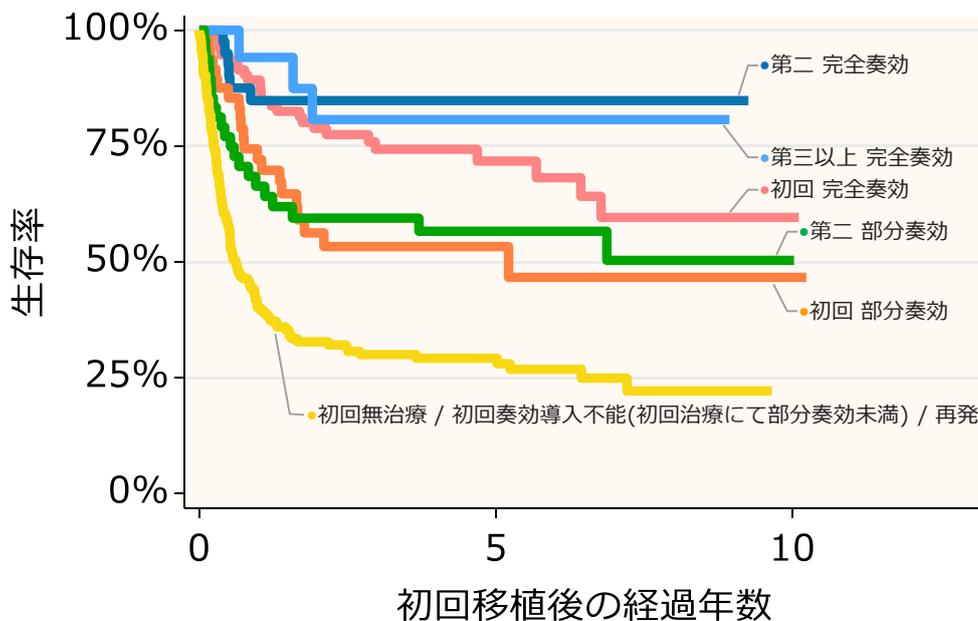
## 移植後の成績

●●●非ホジキンリンパ腫●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の非ホジキンリンパ腫に対するHLA適合同胞間移植後5年生存率(95%信頼区間)は、初回完全奏効(95件)で72%(60-81%)、第二完全奏効(40件)で85%(69-93%)、第三以上完全奏効(17件)で81%(51-93%)、第一部分奏効(48件)で53%(37-67%)、第二部分奏効(48件)で57%(41-70%)、初回無治療/初回奏効導入不能(初回治療にて部分奏効未滿)/再発(185件)で29%(22-36%)である。

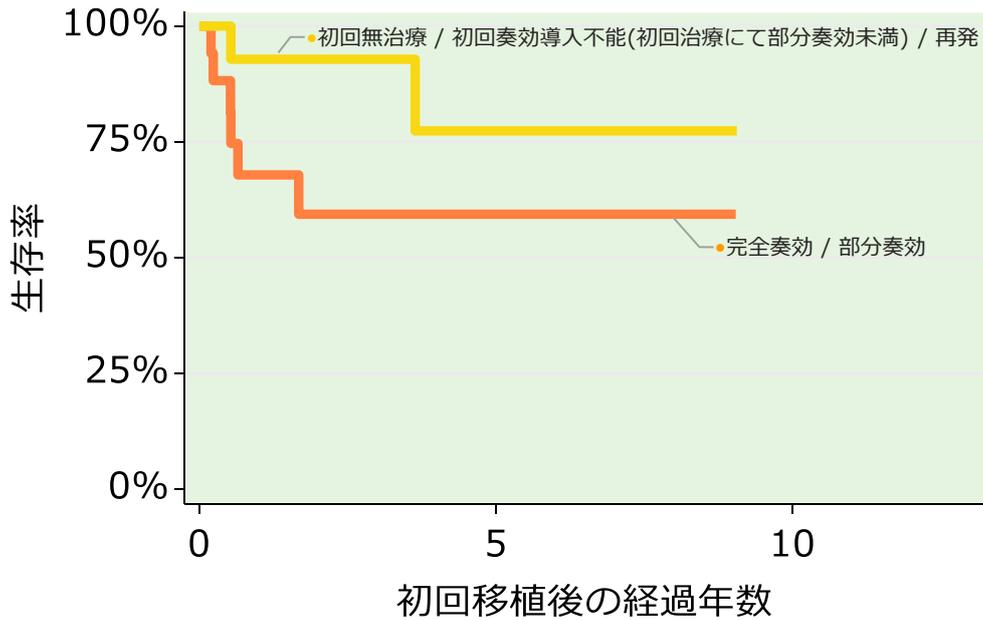
## 移植後の成績

●●●●非ホジキンリンパ腫●●●●

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の非ホジキンリンパ腫に対する非血縁者間骨髄移植後5年生存率(95%信頼区間)は、完全奏効/部分奏効(17件)で59%(30-80%)、初回無治療/初回奏効導入不能(初回治療にて部分奏効未満)/再発(14件)で77%(31-94%)である。

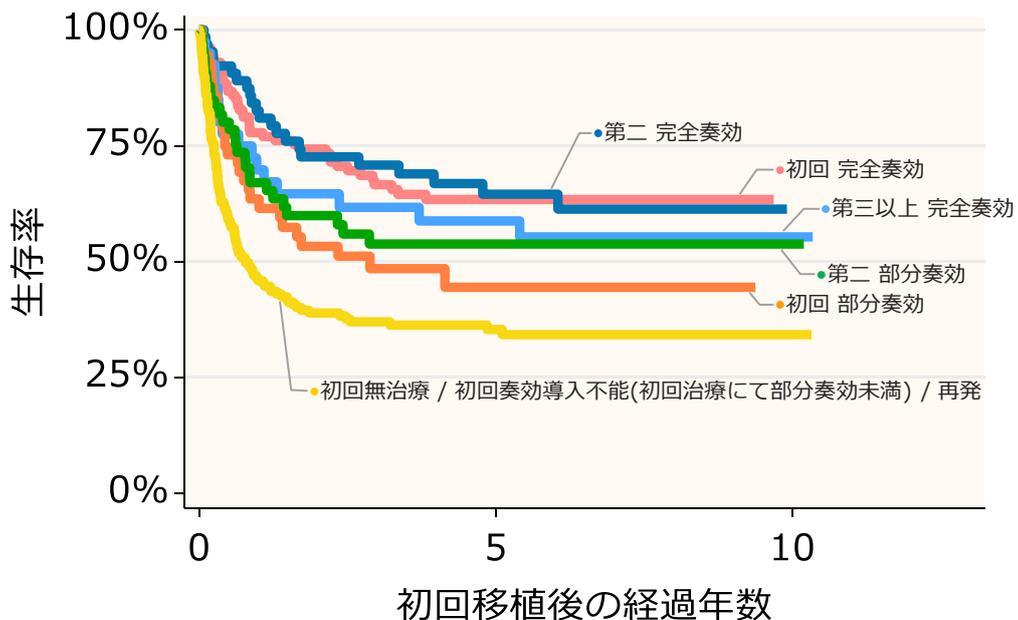
## 移植後の成績

●●●●非ホジキンリンパ腫●●●●

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の非ホジキンリンパ腫に対する非血縁者間骨髄移植後5年生存率(95%信頼区間)は、初回完全奏効(128件)で63%(54-71%)、第二完全奏効(64件)で64%(51-75%)、第三以上完全奏効(40件)で59%(42-72%)、第一部分奏効(56件)で44%(29-58%)、第二部分奏効(66件)で54%(40-66%)、初回無治療/初回奏効導入不能(初回治療にて部分奏効未満)/再発(193件)で35%(28-42%)である。

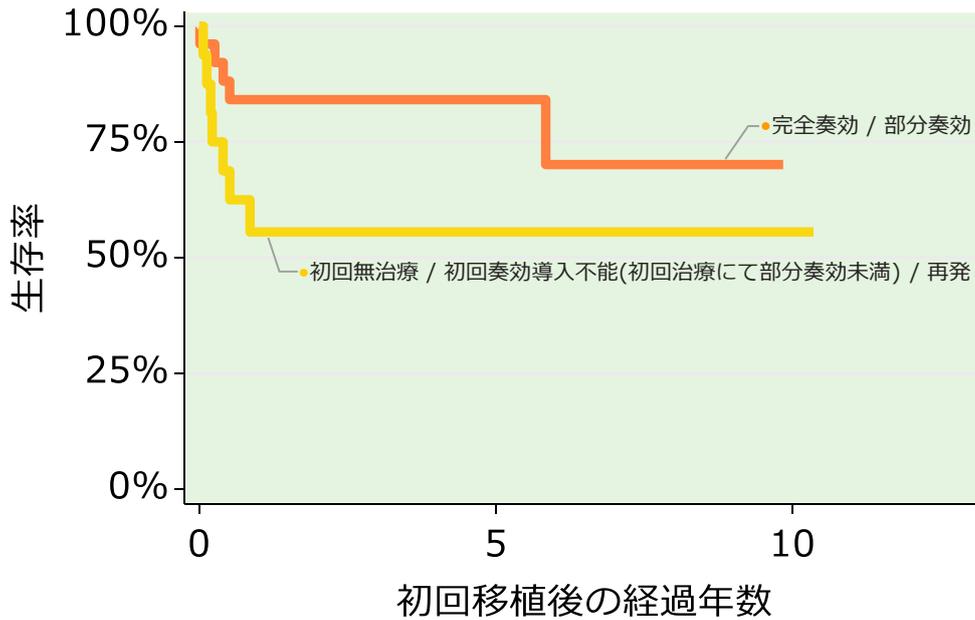
## 移植後の成績

●●●●非ホジキンリンパ腫●●●●

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の非ホジキンリンパ腫に対する非血縁者間さい帯血移植後5年生存率(95%信頼区間)は、完全奏効/部分奏効(26件)で84%(63-94%)、初回無治療/初回奏効導入不能(初回治療にて部分奏効未満)/再発(16件)で56%(29-76%)である。

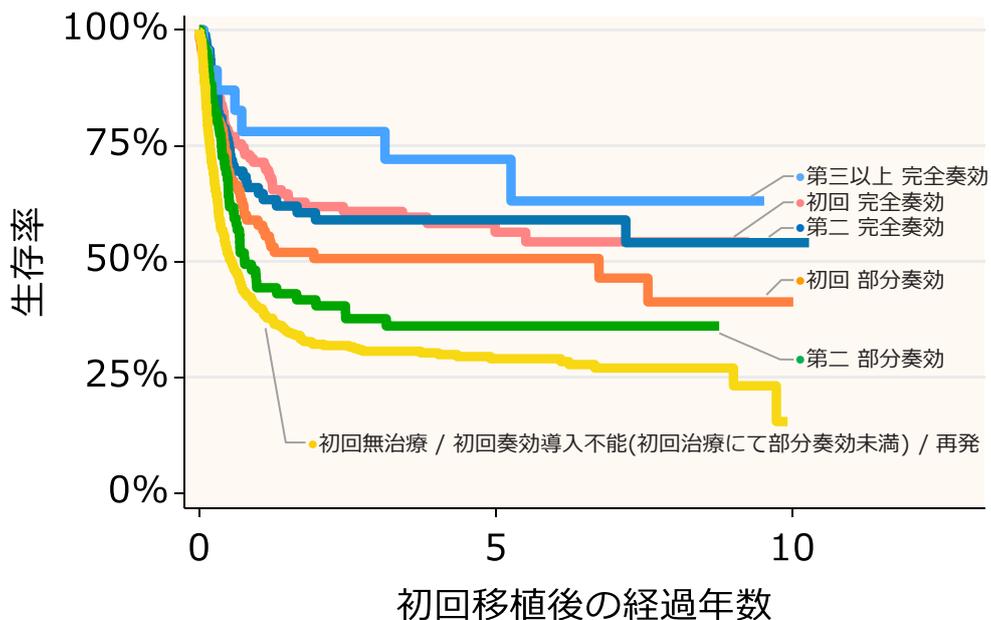
## 移植後の成績

●●●●非ホジキンリンパ腫●●●●

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の非ホジキンリンパ腫に対する非血縁者間さい帯血移植後5年生存率(95%信頼区間)は、初回完全奏効(136件)で56%(46-65%)、第二完全奏効(91件)で59%(48-69%)、第三以上完全奏効(23件)で72%(47-87%)、第一部分奏効(108件)で51%(40-60%)、第二部分奏効(85件)で36%(26-47%)、初回無治療/初回奏効導入不能(初回治療にて部分奏効未満)/再発(429件)で29%(24-34%)である。

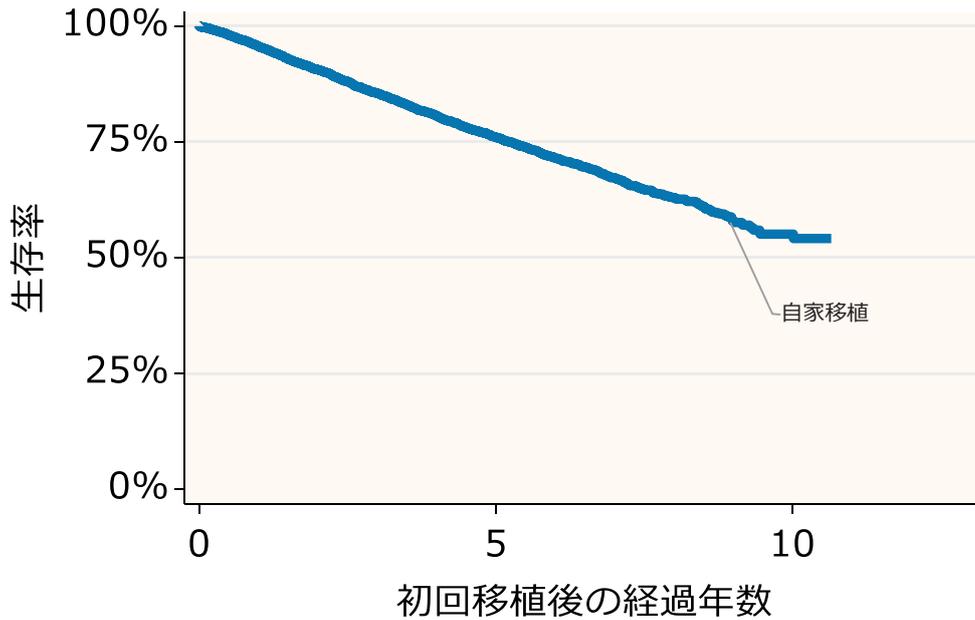
## 移植後の成績

●●●多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍●●●

自家移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍に初回自家移植の登録件数は7,790件に及ぶ。移植後5年生存率(95%信頼区間)は、76%(75-77%)である。

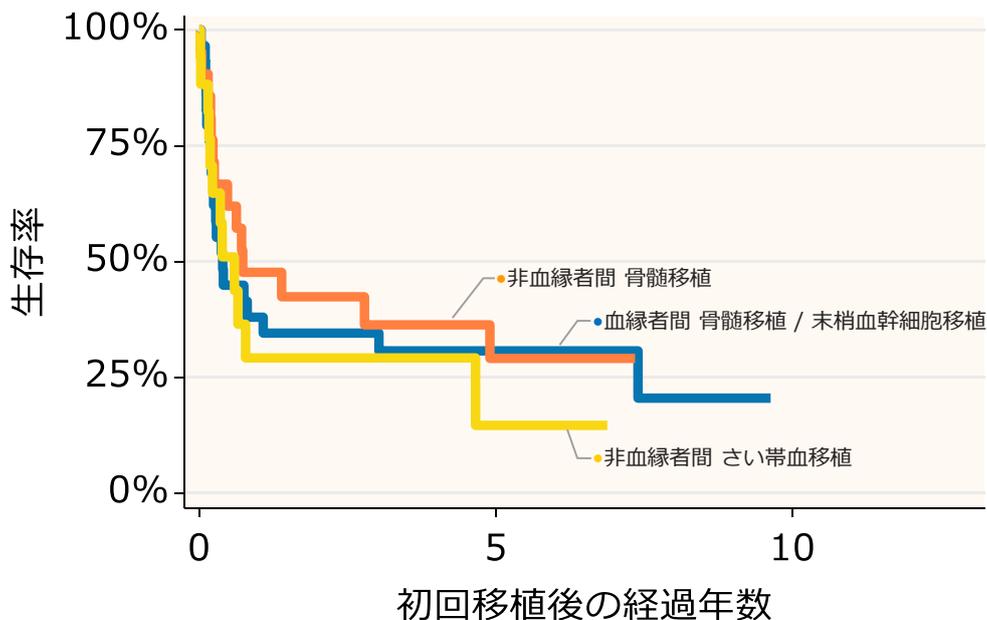
## 移植後の成績

●●●多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍●●●

同種移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植/末梢血幹細胞移植(29件)で31%(15-48%)、非血縁者間骨髄移植(21件)で29%(11-50%)、非血縁者間さい帯血移植(17件)で15%(1-43%)である。

生存率

● 形質細胞性腫瘍

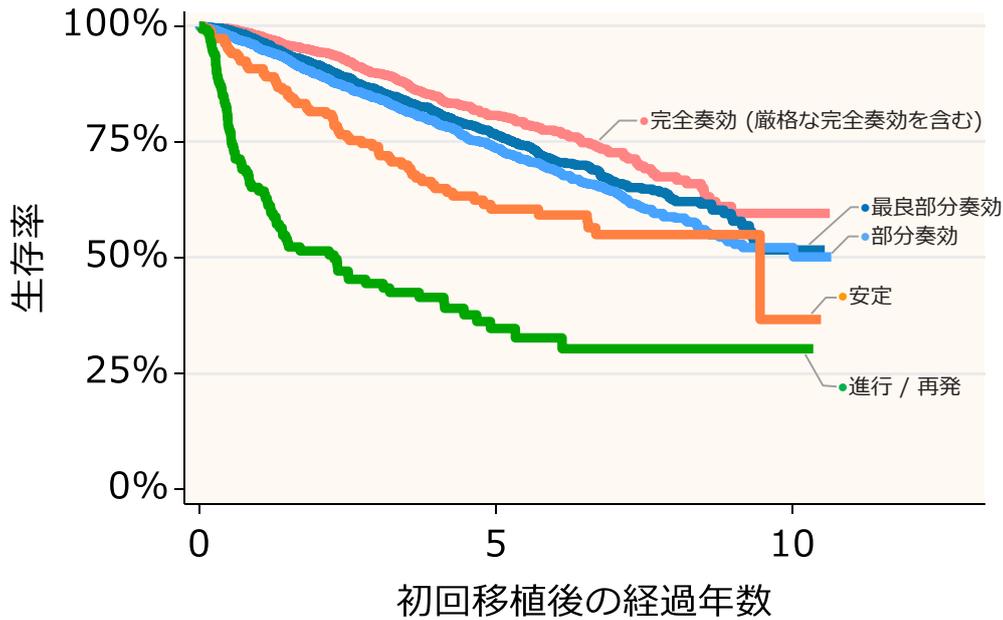
## 移植後の成績

●●●多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍●●●

自家移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍に対する自家移植後5年生存率(95%信頼区間)は、完全奏効(厳格な完全奏効を含む)(1,765件)で81%(78-83%)、最良部分奏効(2,487件)で77%(74-79%)、部分奏効(2,534件)で74%(72-76%)、安定(194件)で60%(52-68%)、進行/再発(153件)で35%(26-44%)である。

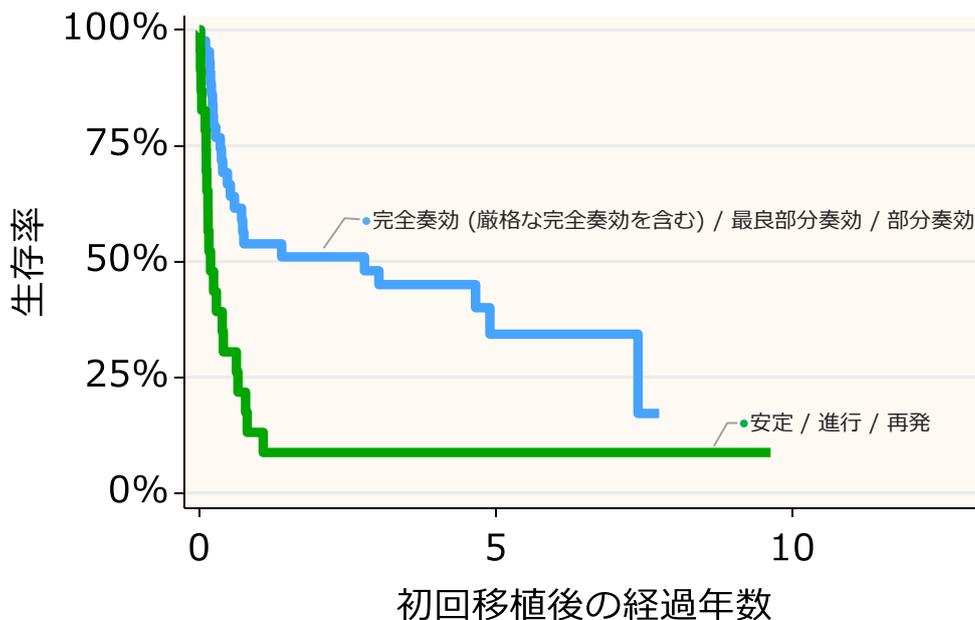
## 移植後の成績

●●●多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍●●●

同種移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍に対する同種移植後5年生存率(95%信頼区間)は、完全奏効(厳格な完全奏効を含む)/最良部分奏効/部分奏効(43件)で34%(18-52%)、安定/進行/再発(23件)で9%(2-24%)である。

## 移植後の成績

●●●多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍●●●

HLA適合  
同胞間移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)

※症例数が極めて少ないため省略

## 移植後の成績

●●●多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍●●●

非血縁者間  
骨髄移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)

※症例数が極めて少ないため省略

## 移植後の成績

●●●多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍●●●

非血縁者間  
さい帯血移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)

※症例数が極めて少ないため省略

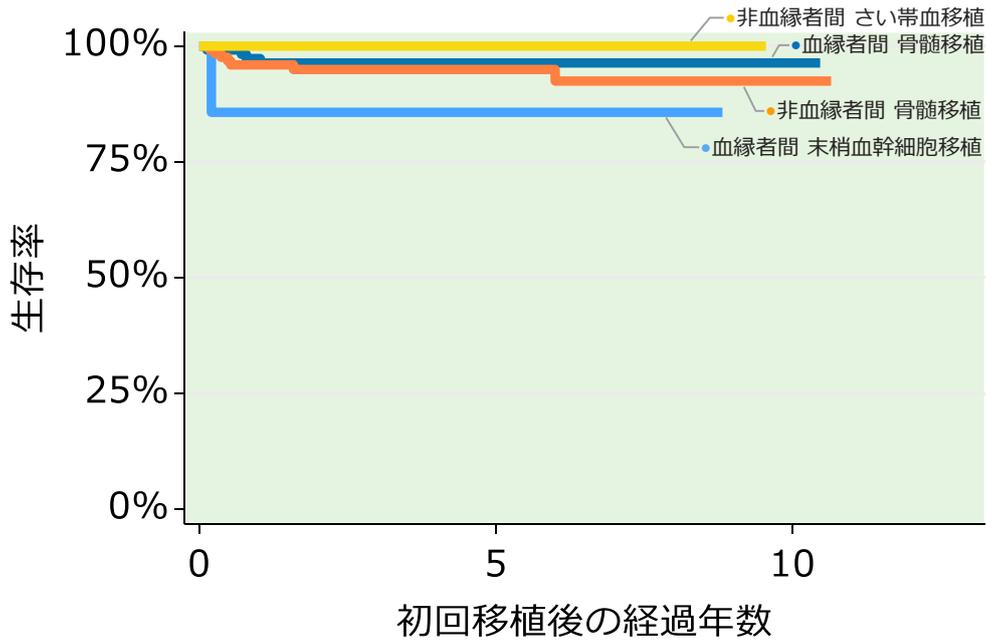
## 移植後の成績

●●●●●再生不良性貧血●●●●●

同種移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の再生不良性貧血に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(121件)で96%(91-99%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(7件)で86%(33-98%)、非血縁者間骨髄移植(129件)で95%(89-98%)、非血縁者間さい帯血移植(28件)で100%である。

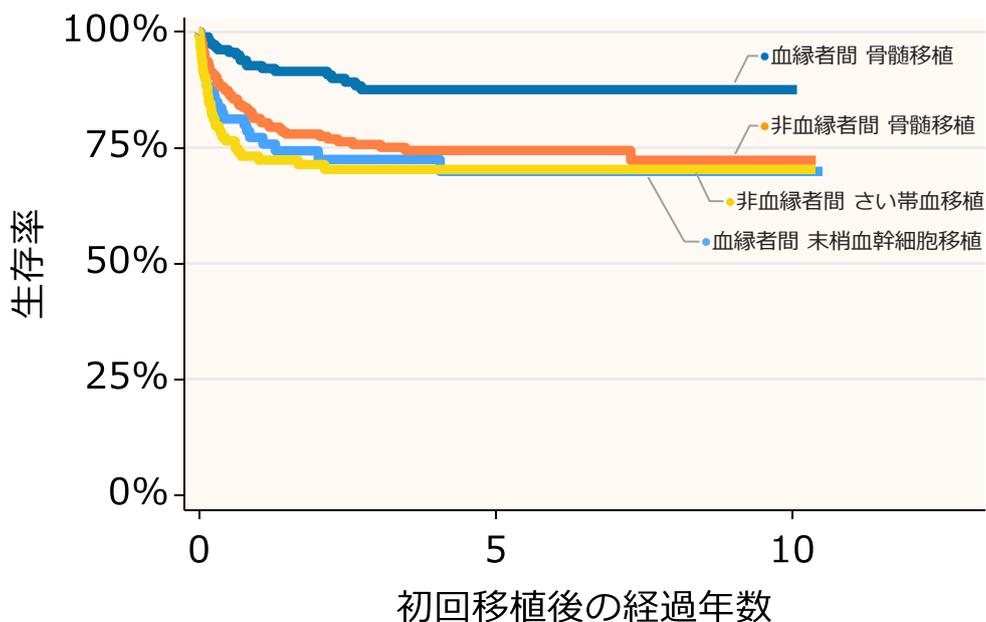
## 移植後の成績

●●●●●再生不良性貧血●●●●●

同種移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の再生不良性貧血に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、血縁者間骨髄移植(182件)で88%(81-92%)、血縁者間末梢血幹細胞移植(86件)で70%(58-79%)、非血縁者間骨髄移植(229件)で74%(68-80%)、非血縁者間さい帯血移植(123件)で70%(61-78%)である。

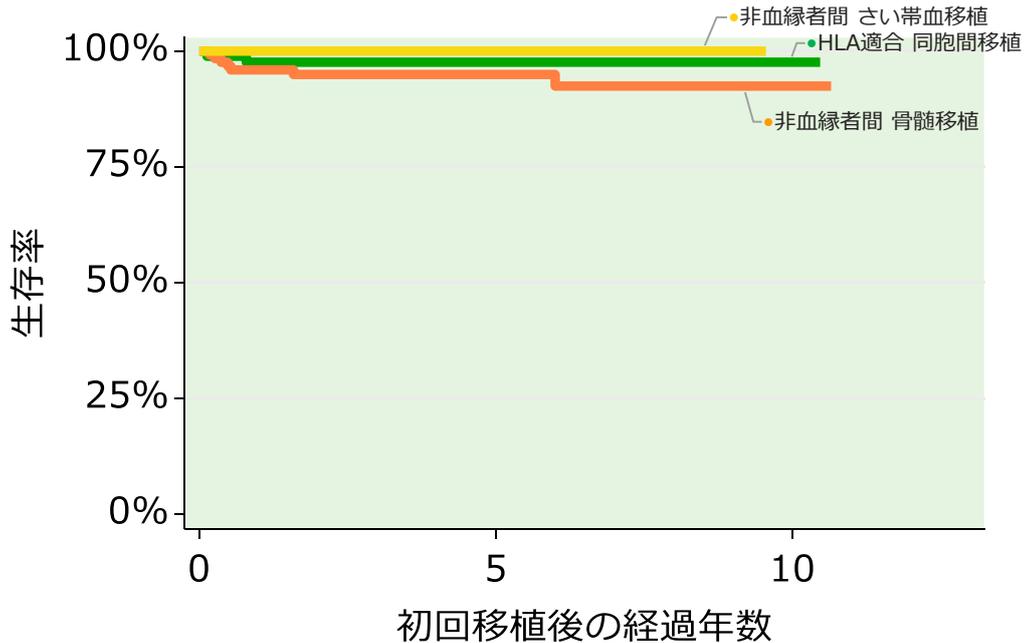
## 移植後の成績

●●●●●再生不良性貧血●●●●●

同種移植

移植時年齢  
0～15歳

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された15歳以下の再生不良性貧血に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、HLA 適合同胞間移植(91件)で98%(91-99%)、非血縁者間骨髄移植(129件)で95%(89-98%)、非血縁者間さい帯血移植(28件)で100%である。

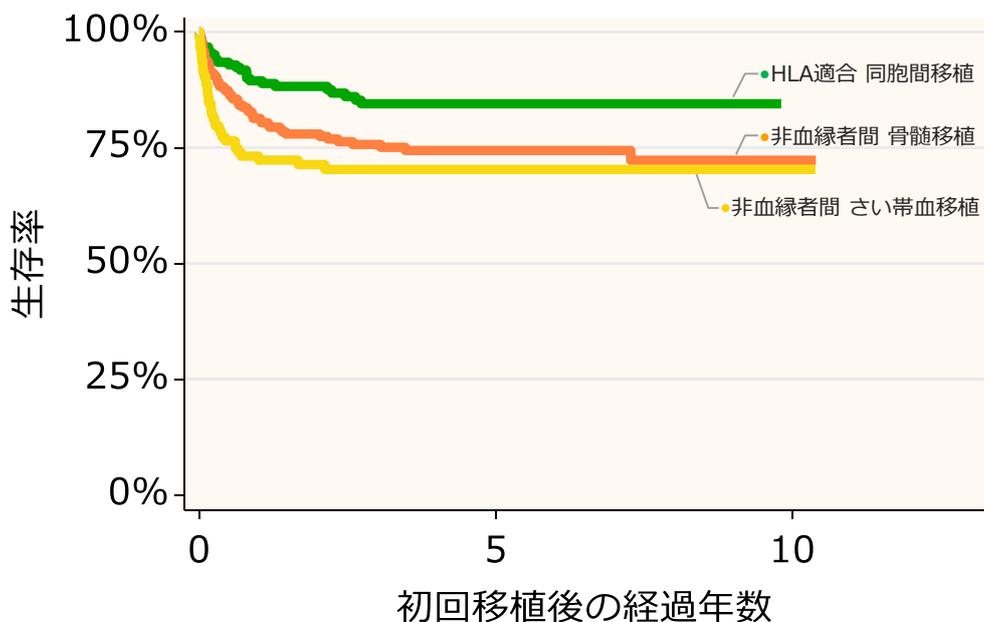
## 移植後の成績

●●●●●再生不良性貧血●●●●●

同種移植

移植時年齢  
16歳以上

直近10年(2013年～2022年)に移植された登録例の生存率 (初回移植)



2013年～2022年に実施された16歳以上の再生不良性貧血に対する移植後5年生存率(95%信頼区間)は、HLA 適合同胞間移植(183件)で84%(78-89%)、非血縁者間骨髄移植(229件)で74%(68-80%)、非血縁者間さい帯血移植(123件)で70%(61-78%)である。

生存率

●再生不良性貧血

一般社団法人  
日本造血細胞移植データセンター

一般社団法人  
日本造血・免疫細胞療法学会